

2015 年度の山口大学の国際交流活動



2016 年 3 月

山口大学国際戦略室

目次

はじめに	1
第1章 2015年度の国際戦略室の活動	3
1. 山口大学 HP「WEEKLY NEWS」で見る 2015年度の国際戦略室の活動	3
2. 国際戦略本部及び国際戦略室	20
3. 学術交流協定	21
(1) 2015年度の学術交流協定の締結等	21
(2) 大学等間学術交流協定	22
(3) 部局等間学術交流協定	25
4. 海外拠点	27
5. 本部への海外からの来訪者	28
6. 本学学長の海外訪問	29
7. その他	29
(1) 国際協力活動推進プラットフォーム	29
(2) 国際会議，国際シンポジウムの開催	30
(3) 政府開発援助（ODA）との連携	30
(4) ODA 事業との連携実績	31
(5) 研究者の交流	35
(6) 職員の研修	35
(7) 学内の国際化推進体制の整備	36
(8) 留学生の促進策	36
(参考) 出身国・地域別留学生数の推移	37
(参考) 学術交流協定に基づく交換留学生数	38
第2章 2015年度の留学生部門の活動	39
1. 留学生にリサイクル自転車を贈呈	39
2. 文化交流イベント「図書館でプチ留学！」を開催しました	39
第3章 2015年度の学術研究部門の国際交流活動	40
1. 独立行政法人日本学術振興会助成	40
(1) 二国間交流事業 【大学院医学系研究科（工学） 山本修一教授】	40
(2) 外国人特別研究員	41
①②【大学院理工学研究科 兵動正幸教授】	41

②【大学院創成科学研究科 川俣 純教授】	-----	43
(3) 論文博士号取得希望者に対する支援事業	-----	43
【大学院理工学研究科 合田公一教授】	-----	43
(4)研究拠点形成事業	-----	44
①【農学部 山田守教授】	-----	44
②【理工学研究科 三浦房紀教授】	-----	45

はじめに

山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念として、人間力とバイタリティーあふれる人材を輩出できる大学、教員と学生が共に育つ「共育できる大学」を目指しています。この「共育」には、大学と地域が連携してグローバル化の中で共に学び発展すること、留学生を迎え、送り出すことによって、それらの国々と日本が相互の理解を深め、協力し合って平和で持続性のある世界を目指して手を携えるという意味も含まれています。これらの認識に基づき、グローバル化社会に対応する「チャレンジ精神、行動力、課題探求力があり、自ら人生を切り開くことのできるたくましい人材を育てる大学」を目指したいと思っています。また、地域社会や国際社会の発展に貢献できる人材育成大学としてさらなる発展を目指します。

山口大学は「知」の公共財として、大学を取り巻く地域のリソースと連携して、国際的貢献を担うべきであるとも考えています。2008年4月には学長を本部長とする「国際戦略本部」を設置し、関連する他の部局とも連携を深めながら、大学の国際化について様々な議論を重ね、それに向けた活動を実施しておりました。2016年6月からは、国際戦略本部を廃止し、「国立大学法人山口大学における国際戦略に関する規則」を新たに制定し、学長のリーダーシップがより発揮できる意思決定及び組織体制を構築します。

本報告書では、第1章にて本学において行われている国際化に向けた取組を2015年度の国際戦略室の活動をもとに取り纏め、留学生部門、学術研究部部門にて実施された国際交流事業をそれぞれ第2章、第3章に掲載いたしました。

この報告書が、学内のみならず本学に関係される多くの方々、大学を取り巻く地域の方々に、本学の国際化の一端を知っていただけたら幸いです。同時に、報告書をお読み頂いた方々から、多くの貴重な意見を頂くことができれば、本学の国際化推進に役立つものと期待しています。これからも大学内外の関係者の皆様にお知恵をお借りしながら、積極的に山口大学の国際化を推進していきますので、皆様方の力強いご支援をお願いいたします。

国際戦略室

2015年度の山口大学の国際交流活動

第1章 2015年度の国際戦略室の活動

1. 山口大学 HP「WEEKLY NEWS」及び「TOPICS」で見る 2015年度の国際戦略室の活動

○ 在京都フランス総領事が来学



4月3日（金）、在京都フランス総領事ブロー・シャルランリ氏が、山口日仏協会の末松壽会長他2名とともに、吉田キャンパスを訪問しました。

一行は、まず、岡正朗学長を表敬訪問し、岡学長から、今春誕生した国際総合科学部の紹介や、同学部の学生にはフランスへの交換留学の道が開かれていることなど、本学のフランスとの交流に向けた取組みについて説明を受けました。自身も日本留学経験を持つ総領事は、昨年5月の日仏首脳会談の折に、国立大学協会、仏大学長会議、仏技師学校長会議の間で締結された「高等教育機関における履修継続のための履修、学位及び単位の相互認証に関する協定」により、今後、日仏間の学生交流が益々盛んになることへの期待を示し、学生ビザ発給手続きの緩和等が進む中、今後も、日仏間の学術交流のさらなる発展のために尽力していきたいと述べられました。

続いて、一行は三浦房紀副学長（国際・地域連携担当）、医学系研究科上村明男教授、国際総合科学部山本冨里講師との意見交換を行いました。上村教授は、昨年9月に学術交流協定を締結したボルドー第1大学との交流活動を紹介し、同席していた、同大学に派遣された医学系研究科の学生から、充実した留学中の様子が報告されました。続いて、山本講師から、インターネットを利用した言語学習相互支援システムの紹介があり、現在、本学でフランス語を学ぶ学生とフランスのリール第3大学で日本語を学ぶ学生それぞれ10名がペアで実施している相互学習についての説明がありました。

その後、総領事らはキャンパスを散策し、続いて、人文学部ヨーロッパ言語・文学コースの武本雅嗣教授、ドボアシュ・ミシェル准教授と懇談を行い、人文学部におけるフランス語カリキュラムやフランスの大学との学術交流協定締結に向けての展望等について意見を交換しました。

総領事の訪問は、フランス外交筋に本学のグローバルな取組みを紹介するとともに、日仏学術交流の発展のための、有益な情報を得る場ともなりました。本学は、日仏学術交流の発展に寄与できるよう、さらなるグローバル化を推進してまいります。



○ 重点連携大学報告会を実施



5月18日(月)、山口大学において重点連携大学との共同研究についての報告会を開催し、学長をはじめ、理事、URAらの参加のもと、各研究チームの代表者が報告を行いました。

本学は、2013年10月に、大学全体のレベルアップと世界大学ランキングの順位上昇を目指し、学術交流協定校の中から、研究力向上につながると期待できる海外の6つの大学を重点連携大学として選定し、研究費助成等のサポートを行うことにより、研究における海外協定校との連携強化を推進しています。

また、重点連携大学2校を有し、研究力の高い複数の大学が本学との様々なプロジェクトに参画しているタイを重点拠点国に指定しています。

報告会では、2014年度に重点連携大学と共同研究を行った7つの研究チームが、活動内容とその成果、今後の展望等について報告を行いました。どのチームも、初年度の研究成果を踏まえ、さらに一步踏み込んだ研究を行っており、学会発表や論文発表等の成果も多数見受けられました。

報告後の質疑応答では、学長、理事らから多くの質問がなされ、発表者との間で活発な意見交換が行われました。

また、若手研究者及び学生間での交流促進、連携オフィスの充実、学部の枠を越えた共同研究の実施といった今後の課題もあげられ、それらを実現していくことが、重点連携大学との交流の推進につながることが確認されました。

本学は、今後も重点連携大学との共同研究を推進し、研究力及び国内外での認知度を高めることにより、学生にとって魅力ある大学づくり、国際・地域社会への貢献に取り組んでいきたいと思えます。

報告が行われた重点連携大学とのプロジェクトは、以下のとおりです。

報告者 所属・職・氏名	相手先大学名	プロジェクト名
医学系研究科(工)・教授・上村 明男	UCL(ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン)(イギリス)	UCLとの連携活動(有機化学分野を中心に)
経済学部・教授・横田 伸子	梨花女子大学校(韓国)	日本と韓国における労働の非正規化と社会的格差拡大に関する比較研究調査プロジェクト
医学系研究科(医)・教授・村上 京子	梨花女子大学校(韓国)	日本および韓国の看護職における健康に関する信条-Q分類法を用いた共同研究
共同獣医学部・助教・谷口 雅康	チュラロンコン大学(タイ)	ゾウの精子形成解明と異種間での体細胞クローン胚作製

医学系研究科（農）・教授・山田 守	カセサート大学（タイ）	熱帯性環境微生物資源の開発研究
	チュラロンコン大学（タイ）	
理工学研究科（工）・教授・三浦 房紀	ウダヤナ大学（インドネシア）	国際共同教育，共同研究による衛星リモートセンシング人材育成
	UCL（ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン）（イギリス）	文理融合による防災研究の新しい展開
教育学部・准教授・上原 一明	淡江大学（台湾）	東アジア的文化アイデンティティ構築におけるメカニズムの解明に向けて



○ 中国西安交通大学と学術交流協定を締結

平成 27 年 6 月 15 日（月），三浦副学長（国際・地域連携担当），葛留学生センター長，植村東アジア研究科長，朝水経済学部准教授らが，中国西安交通大学で行われた学術交流協定調印式に出席し，西安交通大学からは，席副学長をはじめ，日本語学科の教員 6 名が臨席しました。

西安交通大学は，中国政府が重点大学として選定した 985 工程 39 校の第一期 34 校の中でも最初に選定された 9 校の一つであり，中国中部において，規模，研究水準ともに最高峰の大学として知られています。

式の冒頭，席副学長から「山口大学と協定を結ぶことができ，大変うれしく思う。今回の協定締結を契機に，更なる研究交流，学生交流を実施していきたい。」と歓迎の言葉が述べられました。

調印式の後には，本学の経済学部および国際総合科学部との学生交流について協議が行われ，参加した日本語学科の学生からは，本学への留学に関する多くの質問があがり，今後の活発な交流を期待させるものとなりました。

その後，三浦副学長一行は，6 月 16 日（火）に山東農業大学，翌 6 月 17 日（水）には山東大学を訪問し，研究者交流や，学生交流に関する意見交換を行いました。

山東農業大学は，中国泰安市に位置し，100 年以上の歴史を持つ由緒ある総合大学です。本学とは以前から研究交流があることに加え，本学の元留学生が同大学で教鞭をとっていることから，今回の訪問が実現しました。同大学からは，日本語を学ぶ多くの学生を山口大学に派遣したい，そのために学術交流協定を締結したいという要望がなされました。

山東大学は、本学の最初の学術交流協定校であり、協定締結以来 30 年以上の長きにわたり、教育・研究交流が行われています。今回の訪問では、今後の交流について意見交換を行い、表敬訪問した曹副学長からは、本学が創基 200 周年を迎えたことへのお祝いの言葉に加え、山東大学が新たに設立する青島キャンパスの紹介がありました。

山口大学は、今後も協定校との交流をさらに充実させ、学生・教職員の国際化を図っていきます。



○ 岡学長らが韓国の 2 大学（群山大学校，梨花女子大学校）を訪問



8 月 16 日（日）～8 月 17 日（月），岡学長，田中俊彦理工学研究科教授，江鐘偉理工学研究科教授らが，韓国の群山大学校を，SPIED（Summer Program for Innovative Engineering Design）プログラムのオープニングセレモニーに出席するために訪問しました。



SPIED プログラムはグローバル人材育成教育の一環で，日本・中国・韓国の工学系の学生が 2 週間の交流を行う事業です。2013 年に第 1 回目が山口大学で開催され，今年の群山大学校での開催で 3 回目を迎えます。オープニングセレモニーの中で岡学長は，「山口大学にとって重要なことはイノベーションとグローバル化であり，学生たちはこのようなプログラムに参加することにより海外に飛び立ち，海外の大学の研究者や学生と交流することにより自信を深めてほしい」と述べました。続いて一行は群山大学校のキャンパスを視察した後，群山大学校学長や教授と会談を行いました。群山大学校とは大学間学術交流協定を締結しており，教育・研究面での交流発展，地方の大学の生き残り，学生を取り巻く就職環境などについての意見交換が行われました。

8 月 18 日（火）には，横田伸子経済学部教授が加わり，梨花女子大学校を，学生交流を中心とした連携・協力関係の強化についての協議を行うため訪問しました。

梨花女子大学校は韓国ソウル市に位置し，70 年の歴史を持ち，人文・社会科学をはじめ，自然科学，工学，医学，薬学などの学部を有する大学です。本学とは大学間学術交流結しており，また梨花女子大学校は本学の選定する重点連携大学の一つとなっています。今回の岡学長の韓国訪問で，先方の副総長，国際交流処長との会談が実現しました。今回の訪問では，今後留学生や研究者の交流を活発化し，さらには梨花女子大学校との連携強化により女性研究者や職員の増加を目指すといった議論がなされました。

今年の日韓国交正常化 50 周年記念の年でもあり、今回の訪問を機に、本学は日韓の学術交流の発展を進め、グローバル化を推進してまいります。



○ 韓国・忠北大学校工科大学長らが来学されました

本学の協定校である韓国の忠北大学校から、Doo Hyun Kim 工科大学長をはじめ 5 名の教職員が、8 月 26 日（水）から 28 日（金）にかけて来学されました。

27 日（木）には、進士工学部長表敬訪問の後、工学部 D12 講義室にて第 2 回研究発表セミナーが開催され、活発な情報交換が行われました。翌 28 日（金）には、岡学長を表敬訪問され、今後の両大学間における学部を超えた学生及び研究者交流等の発展について活発な意見交換が行われ有意義な会談となりました。

今回の来学を機に忠北大学校との連携が深まり、学生及び研究者交流等のさらなる進展につながることを期待されます。



○ バングラデシュから 18 名の研修員が来学されました

9 月 8 日（火）、国際協力機構（JICA）の国別研修で、バングラデシュから行政官や市長、総勢 18 名が来学されました。

この研修は、日本の中央政府と地方自治体の関係や日本の税制に関する講義、山口県内の地方自治体の視察を通じて、バングラデシュにおける中央、地方の公務員制度改革、地方自治・地方分権化の方向についてビジョンを形成することを目的として、JICA の協力要



請に基づき 2013 年度から実施しています。3 回目となる今回の研修では、先日日本ジオパークに認定された美祢市など、特徴的な地方行政を行っている自治体への視察も行われました。

当日は、開講式が催され、本学からは、三浦副学長（国際・地域連携担当）、成富経済学部長らが出席しました。開講式では、初めに三浦副学長から「多くの歴史や地理的特徴を持つ山口を楽しんでいただきたい。実りある研修になることを願っています。」との挨拶があり、研修員を代表し、アフザル氏が、「今回の研修で多くの知識を得て、バングラデシュに還元したい」と意気込みを語りまし

た。その後、参加者の紹介の後、全員で記念撮影を行いました。本学での研修は9月11日まで、4日間の日程で実施され、その後16日まで東京で研修が実施されます。

バングラデシュからは、これまでJICAの国別研修により受け入れている36名の研修員のほか、留学生も多く受け入れています。本学は今後もバングラデシュとの交流を深め、バングラデシュの国および地方の発展に寄与していきたいと考えています。



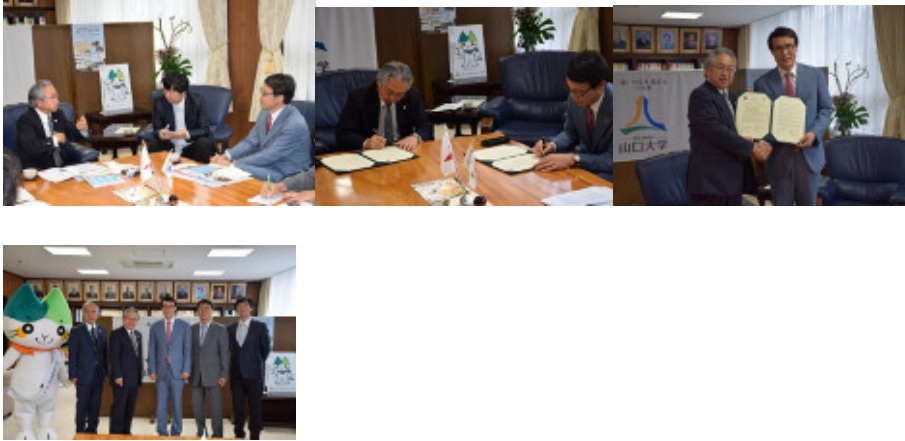
○ 韓国の全北大学校と学術交流協定を締結

9月16日(水)、吉田キャンパスにて、韓国全北大学校との学術交流協定調印式を開催し、全北大学校からはLee Nam Ho学長・Choi Yong Jun副学長補佐・通訳のJung Hee Chul氏の3人が、本学からは岡正朗学長・松田博理工学研究科教授・庄野栄二国際総合科学部事務長、松本勝典国際・地域連携課長らが出席しました。

全北大学校と本学は、2004年に同大学工科大学と本学工学部との間に部局間協定を締結し、本学工学部社会建設工学科、全北大学校土木工学科、韓国建設技術研究所の3機関による共同シンポジウムを毎年持ち回りで実施するなど、充実した交流を実施してきました。このたび、国際総合科学部を中心とした学生交流について合意に至り、大学間協定を締結することになりました。

調印式は、終始和やかな雰囲気で行われ、まず、岡学長が、本学の概要や今年度に開設された国際総合科学部の概要について説明した後、Lee学長から、国際総合科学部を中心とした交換留学をきっかけに、両校の特色を生かして交流を拡大していきたいとの今後の具体的な交流について提案がありました。その後、岡学長とLee学長が協定書にサインし、参加者全員で記念撮影を行いました。

本学では、国際戦略における重要な課題のひとつに、日本人学生の海外留学の推進を掲げており、この協定締結により、多くの学生が韓国へ目を向け、留学希望者の増加につながることを期待されます。



○ タイのチュラロンコンで第2回重点連携大学セミナーを開催しました

9月17日(木), タイのチュラロンコン大学理学部講堂にて山口大学, チュラロンコン大学, カセサート大学(タイ)による第2回重点連携大学セミナーを開催し, 山口大学からチュラロンコン大学やカセサート大学へ短期留学中の学生5名を含む, 総勢約70名が参加しました。

山口大学は, 海外の学術交流協定校の中から6つの大学を重点連携大学に選定し, 研究交流を強化することで, 大学全体の研究力向上を目指しています。その中でタイは, 重点連携大学に指定された大学が2校あることから, 重点拠点国に選定されています。

セミナーでは始めに, チュラロンコン大学の Mongkol Techakumphu 副学長から開会挨拶が述べられ, 山口大学からは富本幾文副学長補佐が山口大学並びに重点連携大学(重点拠点国)事業の趣旨等の紹介を行いました。その後, 10名の研究者(山口大学から4名, 東亜大学から1名, カセサート大学から1名, チュラロンコン大学から4名)による研究成果発表があり, 特に若手の研究者の顕著な成果発表が注目を集めました。

山口大学は, 今回ご協力頂いたチュラロンコン大学の Alisa Vangnai 実行委員長並びに実行委員会及び補助を頂いた学生の皆様に感謝申し上げるとともに, 今後とも重点連携大学のとの共同研究の発展に取り組んでまいります。



○ タイ・メージョー大学の学長ら7名が来学されました

11月12日(木), タイのメージョー大学から Chamnian Yosraj 学長, Yongyooth Srigoifun 国際担当副学長, Pawin Manochai 研究およびネットワーキング担当副学長, Ruangchai



Juwattanasamran 農業生産学部長, Umaporn Upara 農産業工学部長, Natthawud Dussadee 再生エネルギー学部長, 大学院生の Piriya Nimngoen さんが吉田キャンパスを訪れました。

メージョー大学農業生産学部と本学の農学部は、2012年2月に学部間学術交流協定を締結して以来、研究者交流や学生交流を活発に行ってきました。このたびの訪問では、これまでの交流を踏まえて、今後の更なる交流を見据えた、様々な議論がなされました。

一行はまず、岡正朗学長を表敬訪問し、懇談を行いました。これには、農学部の執行正義教授（国際戦略室主事）も出席し、懇談会の冒頭、これまでのメージョー大学と本学の交流状況についての紹介がありました。Yosraj 学長からは、今般の訪問を温かく迎え入れてくれたこと、これまでの交流に対する謝辞が述べられるとともに、今後は農学部以外でも、交流が可能な分野における学生及び教職員の交流や共同研究を行っていききたいとの発言がありました。岡学長からは、本学の概要説明がなされ、その中で紹介された、新設の国際総合科学部に対して、一行から、「英語で履修できる科目が40%以上あることは、日本の大学ではとても珍しく、同学部について情報提供をしてもらいたい」との発言がありました。

続いて、一行は二班に分かれ、国際総合科学部および農学部との懇談を行いました。国際総合科学部との懇談では、福屋利信副学部長（国際戦略室主事）より国際総合科学部のカリキュラムの説明がなされると、先方より今後の学生交流を見据え、引き続き情報交換していくことが提案されました。農学部においては、小林淳教授（教育研究評議会評議員）、執行教授、横山和平教授、吉田華奈子さん（農学部4年生、メージョー大学への短期留学生）との懇談のほか、中高温微生物研究センター実験室の見学および植物工場実証施設の視察が行われました。懇談では、現在協定を締結している農業生産学部以外の学部との交流の可能性や教職員の交流について話が及びました。

今回の訪問をきっかけに、本学とメージョー大学との交流が、ますます発展していくことが期待されます。



○ 重点連携大学プロジェクト シンポジウム「山口大学がつなぐ世界と山口」を開催しました

11月14日（土）、吉田キャンパス共通教育棟1番教室において、重点連携大学共同研究プロジェクトシンポジウム「山口大学がつなぐ世界と山口」を開催し、台湾の淡江大学教員、台北駐福岡経済文化弁事処、および本学教員の、総勢11名が登壇しました。

山口大学は、海外の学術交流協定校の中から6つの大学を重点連携大学に選定し、研究交流を強化することで、大学全体の研究力向上を目指しています。淡江大学は、台湾の私立大学の中でも屈指の大学であり、グローバル教育をリードしています。平成25年には本学教育学部と淡江大学文学院との間で学術交流協定を締結しており、今年度から2名の学生が交換留学生として在籍しています。

シンポジウムでは、始めに、本学の三浦房紀副学長（国際・地域連携担当）から、開会の言葉と開催意義が述べられました。

第一部では「東アジア人を知ろうー台湾，そして日台の関係ー」と題して、日台の専門家が歴史、伝統文化、観光、美術などを通じて、台湾をパノラマ的にわかりやすく紹介しました。淡江大学からは、陳玉鈴助教による「次はどこに行こうか？観光CMから想像してみよう」、馬銘浩准教授による「書道の伝統、現在と未来」、林呈蓉教授による「興味の台湾史話：伊藤博文と台湾」、李其霖助教による「台湾海域に沈没した日本の戦艦」の発表が行われ、本学からは、菊屋吉生教授による「台展における台湾人画家と同世代日本人画家との共通性 - 「台展三少年」を中心にして」という発表が行われました。その後、総括として本学の額厚厚理事・副学長（教育学生担当）が登壇しました。

第二部では、パネルディスカッション「山口大学がつなぐ世界と山口」と題し、本学から三浦副学長、国際総合科学部の福屋利信副学部長、教育学部本プロジェクト研究員の吉村誠教授、淡江大学から林信成文学院院长、台北駐福岡経済文化弁事処から林育柔副領事の5名がパネリストとして登壇し、地域と世界をつなぐという観点から、これからの山口大学の役割を熱く語り合いました。パネリストからは、それぞれの立場から、興味深い内容の話が述べられ、参加者の高い関心を集め、質疑応答では美祢市職員の方から、美祢市が取り組んでいる台湾とのプロジェクトに関する質問などがあがり、淡江大学の林文学院院长の言葉で閉会しました。

本プロジェクトは、今後、共同研究の成果として論文集を出版するほか、今年度末に電子ジャーナルを立ち上げ、2016年10月にはWEB上で公開する予定です。山口大学は、重点連携大学との共同研究をより一層発展させ、研究力の向上に取り組んでまいります。



○ 海外派遣 SD 研修報告会を開催しました

11月18日(水)、吉田キャンパスにおいて、平成27年度山口大学職員海外派遣SD(スタッフ・ディベロップメント)研修参加者による帰国報告会を開催しました。

この研修は、本学の職員を海外の大学に派遣し、派遣先大学の管理運営や教育研究体制について取材を行うなどの実地研修を通して、大学運営の現状と課題への理解と意識を高め、業務改善に資する人材育成を行うことを目的としています。今回の報告会では、今年度派遣予定の13名のうち10月末までに研修を終えた6名の報告が行われ、約30名の教職員が参加しました。

報告会の冒頭、松本勝典国際・地域連携課長から、研修参加者の経験と提案をいかに活かしていくかが、今後のダイバーシティキャンパスの実現と推進にとって重要になってくるとの挨拶がありました。

その後、研修に参加した職員から、研修参加のきっかけや、研修先で学んだこと、派遣先大学の取り組みや本学との相違点、研修の成果を今後山口大学でどのように活かしていくかについて、プレゼンテーションが行われました。発表後には、報告を聴いた職員からの質問があり、活発な意見交換が行われました。

最後に坂本紘二監事から「年々、報告会の内容が充実してきており、今回は特に素晴らしい内容であった。ぜひ、報告者からの提案を具体化する仕組みを構築してほしい。また、報告者からの報告にもあったように、海外の学生に対して、なぜ山口大学が留学先として最適なのかを説明できるように、職員一人ひとりが山口大学の強み、特色、中期計画やビジョン等を理解し、今後はそれらを職員全員で共有できるよう努力してほしい。」と激励の言葉が述べられ、報告会は終了しました。

なお、11月以降に派遣される職員による第2回の帰国報告会は、本年度末に開催する予定です。

山口大学は、今後も本研修を充実させ、職員のグローバル人材の育成を目指します。



○ 山口大学海外同窓会マレーシア支部を設立しました

平成27年12月6日(日)、宇部市内のホテルにおいて、中国上海にゆかりのある元留学生や宇部留学生交流会関係者および岡正朗学長以下本学教職員63名が参加し、山口大学海外同窓会中国上海支部設立総会を開催しました。

総会の冒頭に岡学長から、海外同窓会中国上海支部設立のお祝いと、海外同窓会員の活躍への期待をこめた挨拶が述べられた後、松田博宇部留学生交流会長(山口大学理工学研

究科教授) から挨拶があり、このたびの同窓会設立の経緯と同窓会の今後の発展に対する期待が述べられました。



その後、海外同窓会中国上海支部の会則・会長選出について提案があり、出席者によって承認されました。会長に選出された張振家氏(上海交通大学教授)からは、山口大学に貢献できることは大変名誉なことであるとともに、海外同窓会中国上海支部と山口大学や日本との関係強化のために活動していきたいとの意気込みが語られました。さらに、張会長から副会長・名誉会長の指名があり、両名から海外同窓会中国上海支部設立への感謝および活動への抱負が述べられました。

総会終了後、張会長の乾杯の発声で始まった懇親会では、同窓生が大いに旧交を温める中、各々が積極的に壇上に立ち、それぞれの思い出や今後の同窓会の発展についての期待などを述べる等、大変な盛り上がりを見せました。

閉会では、三浦房紀副学長(国際・地域連携担当)による、挨拶と今後の発展を祈念した乾杯が行われた後、参加者全員による記念撮影が行われ、会は盛会のうちに終了しました。

本学は、今回設立された同窓会を中心に、卒業生とのネットワークを強化し、同窓生の協力を得ながら、中国との学術的な交流を一層深めていきます。



○ 山東大学から SD 研修生を受け入れました

平成 27 年 12 月 14 日(月)から 20 日(日)まで、山口大学の協定校である中国・山東大学から、SD(スタッフ・ディベロップメント)研修として学生工作部副部長である傅艺娜氏を受け入れました。

本学と山東大学は、1983 年に学術交流協定の締結、1998 年に学生交流に関する附属書を締結して以来、協定校として今日まで研究者の相互訪問、短期・長期の学生交流など多種多様な交流を継続してきました。2008 年からは相互に事務職員を派遣し、相手大学の管理運営方法および教育研究体制等の調査を通じて、大学運営の現状や課題を把握させ、大学の管理運営業務の改善に資する提案等を目的として研修を行っています。山口大学からは、昨年 12 月、職員の福利厚生や公文書管理等に関する調査および業務改善を目的として、和崎克司経済学部総務企画係長を山東大学へ派遣しており、相互的な交流を行っています。今回の研修では、奨学金の管理や学生への経済的支援に関する業務、事務職員のキャリア形成などについて、本学の職員との意見交換を行いました。経済学部の職員との意見交換では、両校の類似点や相違点について、予定していた時間を超えて議論を重ねました。

また、1982年に山口県と山東省が友好協定を締結したことを契機に、県内・省内の各自治体が相互に友好協定を締結し、交流を行っていることから、山口県および山口市へ表敬訪問も行いました。

研修を終えた傅氏からは「事務組織の構造が異なっており、驚かされるが多かったが、山口大学で学んだことを今後の業務改善に生かしたい」との感想がありました。

本学では、今後も、職員の職務上必要な知識、能力の向上のために、山東大学と協力し、SD研修を実施していきます。



○ 台湾 大葉大学から22名の研修生を受入れました

平成28年1月28日（木）・29日（金）の両日、山口大学の学術交流協定校である台湾大葉大学の教育專業發展研究所から、現職の小・中学校の教諭である大学院生22名を受入れ、日本の教育制度に関する研修を実施しました。昨年に引き続き2度目の実施となるこの研修は、実際の日本の教育現場の見学や、教育制度に関する講義を通じて、日本と台湾の教育の違いについて理解を深め、研修で得た知識を、研修生自身の教員生活で生かすことを目的としています。今回の研修では、本学教員による講義および教育学部附属山口小学校の見学のほか、山口市教育委員会の協力のもと、市内中学校の見学および講義を実施しました。

開講式では、本学の三浦房紀副学長（国際・地域連携担当）から歓迎と激励の挨拶があり、それに対し、研修生を引率する洪福源准教授が、研修生の受入れに対する感謝と研修への意気込みを述べました。その後、一行は山口市立二島中学校へ移動し、タブレットなどのICT機器を活用した授業の見学を行いました。見学後には、タブレットの支給に伴う予算や、タブレットを使った家庭学習などについて、二島中学校の古田茂樹校長と活発な質疑応答がなされました。午後は大学へ戻り、大学教育センターの小川勤教授から日本の教育制度およびアクティブラーニングに関する講義があった後、本学のアクティブラーニング講義室の見学を行いました。

研修2日目は、本学教育学部附属山口小学校の見学のほか、本学工学部の江鐘偉教授による日本のものづくりに関する講義および、教育委員会から招いた講師による、山口市で実践されているコミュニティスクールに関する講義を受講しました。附属山口小学校の見学では、研修生から「台湾では、低学年の児童に掃除を教えることに大変苦労している。日本では、児童にどうやって掃除の仕方を教えているのか」との質問があり、教員が「家庭での教育で身につけていることが多く、そうでない場合も上級生や教員が教えればすぐに身につきます」と回答したところ、研修生は一様に驚いていました。研修の最後に実施

された閉講式では、葛崎偉留学生センター長が、今回の研修で学んだ知識を台湾の教育の発展に生かして欲しいと挨拶し、研修生一人ひとりに修了証書を手渡しました。

山口大学は、今回の研修が台湾における教育の向上・発展の一助となることを願うとともに、今後も大葉大学をはじめとする協定校との関係深化に努めていきます。



○ 「山口大学『国際協力の里』特別講演会」を開催しました

平成28年2月3日（水）、人文学部大講義室にて「山口大学『国際協力の里』特別講演会」を開催し、学生、教職員、一般の方など約70人が参加しました。



講演会では初めに司会進行役の富本幾文国際・地域連携担当副学長補佐より「一緒に日米関係の将来について考えてみましょう」と開会挨拶があり、続いて、特別講師としてお招きした在福岡アメリカ領事館首席領事ユーリー・フェッジキフ氏によって「日米関係—10年後の姿」と題した特別講演が行われました。

冒頭でフェッジキフ氏は、昨年の国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）で新たな法的枠組みである「パリ協定」が採択されたことや、一昨年発生したエボラ出血熱大流行の際の日米の連携した教育・防止活動による死者数増加の抑止、昨年のイランとアメリカを含む諸大国との核開発廃止に関する合意等、各国の協力によって得た成果について触れ、世界は相互に繋がっており、各国が互いに協力・連携することで、国際社会に大きな変化を起こすことができると話されました。

続いて、近年の米中関係構築や今年起こった北朝鮮の水爆実験、昨年の日本・韓国の「慰安婦問題」に関する合意、日本やアメリカなど12か国が参加した環太平洋パートナーシップ協定（TPP）の合意、軍事政権から民主政権の樹立を果たしたミャンマー等、日本とアメリカを取り巻く様々な話題を提供したうえで、多くの課題に直面している現代の国際社会において、日本とアメリカは各国への指導的役割も求められる重要なパートナーであり、これからも共通の価値観を持って両者の絆を強化していきたいと語られました。

また、自身が仕事中に耳にした「日本は島国だから...」「今の若者は内向き」といった現代の日本に対する消極的な声を否定しつつ、タイトルである「10年後の姿」というキーワードに絡め、一国では解決できない国際的課題について、10年後の日本、10年後のあなたは何かをすることができるのかを参加者に問いかけました。

特別講演の後は、参加者を交えたフリーディスカッションが行われ、日本の集団的自衛権行使容認、アメリカ合衆国大統領選挙、アメリカの対日政策等、日本とアメリカに関する様々な疑問が寄せられ、活発な議論が行われました。

最後に岡正朗学長より「日本とアメリカの関係が深いからこそ、本日は活発な議論をすることができた。学生達が積極的に質問してくれて大変嬉しい」との閉会挨拶があり、講演会は盛況のうちに終わりました。



○ 岡学長らが JICA マレーシア事務所およびマレーシア日本国際工科院を訪問

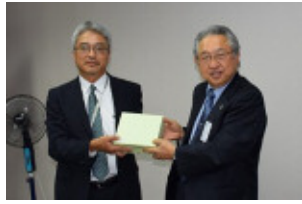


平成 28 年 2 月 19 日（金）、岡正朗学長、上西研学長特命補佐、富本幾文副学長補佐、マレーシア日本国際工科院（以下、MJIIIT）に在籍出向している大島直樹准教授をはじめ、8名の教職員らが、JICA マレーシア事務所および MJIIIT を訪問しました。

JICA マレーシア事務所においては、松本高次郎所長をはじめ 4 名の職員の方と懇談を行い、本学が注力している中小企業の海外展開支援をはじめ、現地での国際協力および国際交流の取り組みに関する概況を伺うとともに、今後の国際協力事業等の立案に有益な情報を得ることができました。また、本学の MJIIIT における取組み状況や同校で本学の技術経営研究科（MOT）が新たに立ち上げる国際連携 i-Kohza について紹介を行い、本学の活動に対する支援を依頼しました。

続いて訪問した MJIIIT においては、ルビヤ・ユーソフ院長、堀江正彦マレーシア工科大学名誉大使他、多くの教職員の方々と懇談会が実施され、活発な意見交換が行われました。MJIIIT は、日本の工学教育の特徴を生かした教育、研究を行うことを目的とした、学部及び大学院を有する教育機関で、本学の協定校でもあるマレーシア工科大学の下に設置されており、日本・マレーシア両国政府の協力により準備が進められ、円借款による支援のもと、2011 年 9 月に開校した新しい教育機関です。本学は、MJIIIT の協力校等から成るコンソーシアムに同校の開学間もない時期から参加し、日本の大学としては初めて現職教員を派遣する等、同校の技術経営学科の講座の確立、運営、人材育成に協力しています。また、平成 26 年 4 月には、MJIIIT に本学の国際連携オフィスを設置し、同校と本学との交流事業等の円滑な実施に努めています。今回の訪問では、ルビヤ院長より、これまでの支援に対する感謝の意が伝えられるとともに、既存の交流を継続的に行い、短期間の研究者交流をより一層進めていきたい等の要望が伝えられました。

今回の訪問で築いたネットワークを活かし、本学は今後もマレーシアにおける学術交流を促進してまいります。



○ 山口大学海外同窓会マレーシア支部を設立しました

平成 28 年 2 月 20 日（土），本学において 8 番目の海外同窓会となる海外同窓会マレーシア支部の設立総会を，マレーシア・クアラルンプールにおいて開催しました。本学は，国費，マレーシア政府派遣，ツイニング・プログラム等で多数のマレーシア人留学生を受け入れ，これまでに 150 名以上の卒業生を輩出しており，卒業生は，行政機関，大学等の高等教育機関，日系企業等に就職し，母国にて活躍しています。今回の設立総会には，47 名の卒業生，在マレーシア日本国大使館の折笠弘維参事官他 2 名の来賓，本学からは岡正朗学長，三浦房紀副学長（国際・地域連携担当），上西研学長特命補佐，富本幾文副学長補佐，マレーシア日本国際工科院に在籍出向している大島直樹准教授をはじめ，10 名の教職員が参加しました。

総会の冒頭，岡学長より挨拶があり，海外同窓会マレーシア支部設立に対するお祝いの言葉とともに，本学のマレーシアにおける学術交流活動の状況，新設の国際総合科学部の紹介等がなされ，今般設立されたマレーシア支部を礎に，同窓生とのネットワークを強化していきたいと意気込みを述べ，「山口大学は，永遠に卒業生の故郷である」と岡学長の言葉に，同窓生一同は胸を熱くしている様子でした。

来賓の在マレーシア日本国大使館の折笠参事官からも，日本の大学で学んだ卒業生の成功体験は，日本式教育の価値を強調するものであり，山口大学の同窓会が設立されたことは意義深く，さらに良好な日馬関係の構築のために貢献していただきたいとの祝辞が述べられました。

その後，海外同窓会マレーシア支部の会則および初代会長が，出席者によって承認されました。初代会長に選出された **Fawzi Bin Ahmad** 氏からは，同窓会を同窓生のためばかりでなく，次世代のために，ビジネスや教育における協働を新たに見出すためのプラットフォームとしていきたいとの意気込みが語られました。続いて，**Fawzi** 会長から名誉会長をはじめ役員の方々の指名および紹介があり，名誉会長に就任した **Datuk Mohd Yusof Bin Samsudin** 氏の乾杯の発声で懇親会が始まりました。

懇親会では、卒業生が旧友との再会を喜び合うとともに、来賓の方々や出席した本学の教職員、との交流を深めていました。また、残念ながら出席が叶わなかった本学の教職員からのビデオメッセージが上映されると、同窓生は在りし日の自分と母校に思いを馳せているようでした。

閉会に際しては、三浦副学長から「山口大学は、皆さんを卒業後もサポートしていきたいと思っており、互いに協力ができるよう、このつながりを大事にしていきたいと思います」とのメッセージが伝えられ、記念撮影の後、会は盛会のうちに終了となりました。

本学は、今般設立された同窓会と緊密な連携を図りながら、マレーシアとの学術交流をさらに深め、大学のグローバル化をより一層推し進めてまいります。



○ 平成 27 年度 第 2 回山口大学職員海外派遣 SD 研修報告会を開催しました

3 月 18 日（金）、吉田キャンパスにおいて、平成 27 年度山口大学職員海外派遣 SD（スタッフ・ディベロップメント）研修参加者による第 2 回研修報告会を開催しました。



本研修は、本学の職員を海外の大学に派遣し、「派遣先大学の管理運営及び教育研究体制についての現地研修を通して、大学運営の現状と課題への理解と意識を高め、業務改善に資する人材へと育成すること」を目的として、平成 16 年度から開始され、本年 3 月現在で延べ 59 人を派遣しています。今般の報告会では、今年度派遣した 13 名のうち、10 月末以降に研修を終えた 7 名の報告が行われ、約 30 名の教職員が参加しました。

報告会の冒頭、坂本企画戦略部長から、「明日の山口大学ビジョン 2015 には、全ての大学人と地域の人々が、互いの歴史・文化・民族・言語・宗教などの違いを超えて、共感・共鳴・共奏できるダイバーシティ・キャンパスを目指すことが掲げられており、その一翼を担っていただくべく、先行投資として職員の方々に海外派遣 SD 研修に参加していただいております。研修で得た知見を日常業務のみならず、大学の国際戦略等に反映していただきたい」との挨拶がありました。

研修に参加した職員からは、研修に参加した目的、研修内容、成果、提案事項等が報告され、ダブル・ディグリー制度の拡大や地方自治体と連携した留学生リクルーティング等、派遣先大学で取組まれている事例で本学へ積極的に導入すべき点や、人材育成等での本学とは異なった取組みが紹介されました。研修参加者からの報告後、活発な質疑応答がなされ、研修参加者だけでなく、今後、海外 SD 研修への参加を希望する若手職

員も巻き込んだ意見交換が行われ、本学のグローバル化について考える良い機会となりました。

本研修に参加した職員が、研修で得た知見を今後の業務において活かしていけるように、また、大学のグローバル化が一步前進するように、本学では、研修参加者からの提案事項等のフォローアップを行っていく予定です。また、ダイバーシティキャンパスの実現に向け、グローバル人材を育成するべく、引き続き、本研修の充実を目指していきます。

平成 27 年度 SD 研修の派遣先等一覧

研修参加者		派遣期間	派遣先
入試課 入試第二係	山本 亜希子	7月7日～20日	ブリストル大学 サリー大学 セントラルランカシャー大学 JSPS ロンドン
経理課 出納係	上田 麻純		
国際・地域連携課 国際連携係	松永 愛	7月26日～8月8日	チュラロンコン大学・カセサート大学・インドネシア大学・バンドン工科大学・ダルマプルサダ大学・国際交流基金ジャカルタ日本文化センター・マレーシア日本国際工科院・マレーシア工科大学
理学部 予算管理係	大谷 いつ子	8月1日～7日	マレーシア日本国際工科院 マレーシア工科大学
学生支援課 留学生交流係	今崎 容子	10月19日～25日	ニューカッスル大学 シドニー工科大学
工学部 総務企画課 人事・職員係	上田 眞広	10月20日～25日	シドニー工科大学
工学部 学務課入試係	浦野 めぐみ	10月28日～31日	ウダヤナ大学
工学部 学務課教務係	安田 留梨香		
工学部 総務企画課 総務企画係	岡崎 敬子		
経済学部 学務係	石田 莉佳	11月2日～6日	大葉大学 東海大学 静宜大学
工学部 会計課 契約第一係	濱田 茂明		
経済学部 総務企画係	和崎 克司	12月1日～5日	山東大学
教育支援課 教員免許係	伊藤 良子	1月19日～24日	エアランゲン大学

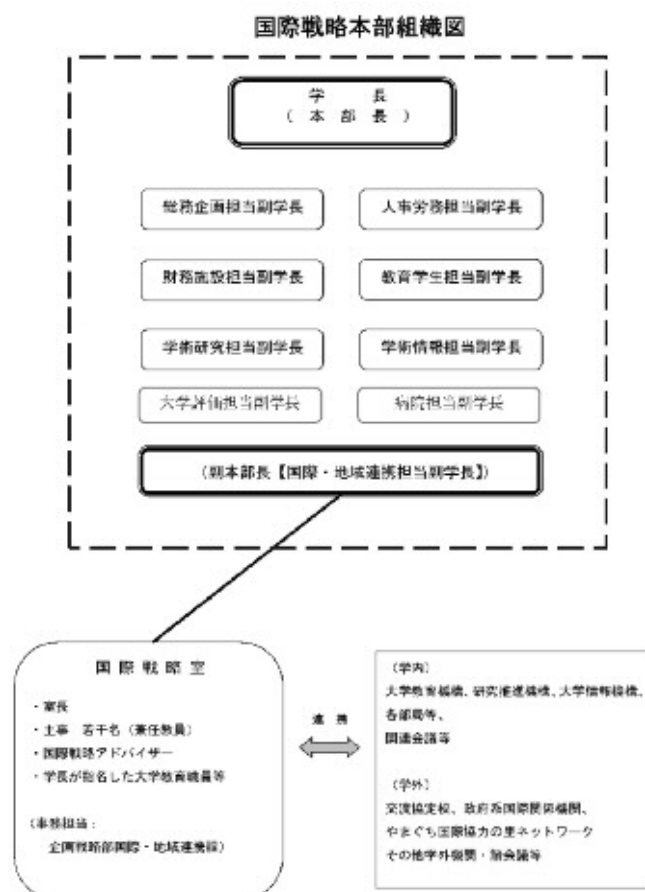
※ 所属は派遣時のもの

2.国際戦略本部及び国際戦略室

(1) 国際戦略本部，国際戦略室の組織と役割

2008年4月に学長を本部長とする国際戦略本部が設置され，国際化に関する大学としての企画立案体制が整備された。また，国際戦略本部の下に，学長特別補佐，教員及び職員を構成員とする国際戦略室(以下，「戦略室」)を置き，国際戦略の企画立案を推進することとした。2010年に副学長が増員されたことに伴い，国際戦略本部の構成員も変更され，国際・社会連携担当学長特別補佐に代わり，新設された副学長(国際・地域連携担当)が，国際戦略本部副本部長 兼 国際戦略室長となった。さらに，国際戦略室の活動を支援する事務組織として，総合企画部国際・社会連携チームが置かれていたが，2012年に，名称を学長戦略部国際・社会連携課に変更し，より一層学長の意思を反映する体制を整えた。なお，同課は，2013年に，課名を国際・地域連携課に，2014年には，部名を企画戦略部にそれぞれ変更し，現在は，企画戦略部国際・地域連携課となっている。

国際戦略本部，国際戦略室の関係及び各構成員は，次の組織図のとおりである。



国際戦略本部，国際戦略室の業務は次のように定められている。

・国際戦略本部の業務

- (1) 教育研究活動における国際的な活動に係る国際戦略に関すること。
- (2) その他国際戦略に関する重要な施策に関すること。

・国際戦略室の業務

- (1) 国立大学法人山口大学の国際連携に係る企画，立案及び実施に関すること。
- (2) 国際交流に関する情報の収集，整理及び提供に関すること。
- (3) 国際協力に関すること。
- (4) 学術交流協定に基づく活動の推進に関すること。
- (5) 海外に向けた大学の国際交流に係る情報の発信に関すること。
- (6) その他国際戦略活動に係る重要事項に関すること。

なお，2016年6月からは，より学長のリーダーシップを発揮できるように，国際戦略本部会議を廃止し，「国立大学法人山口大学における国際戦略に関する規則」を新たに制定し，山口大学内部統制会議又は山口大学教育研究評議会の意見を聴いた上で，学長が山口大学の国際戦略を決定できる体制づくりを行う予定である。

3. 学術交流協定

(1) 2015年度の学術交流協定の締結等

2015年度は学術交流協定を32大学(大学間23大学，学部間9大学)と締結し，11の大学・機関(大学間6大学，学部間5大学)と更新した。

その結果，2015年3月末現在で，大学間では，21ヶ国，81大学・機関と学術交流協定を締結，学部間では，本学の9学部，2研究科が23ヶ国，52件の学術交流協定を締結していることとなった。



【2015.9 韓国・全北大学校との大学間学術交流協定締結後，Lee Nam Ho 学長（右）と握手を交わす岡学長（左）】

(2) 大学等間学術交流協定

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
インドネシア	ブラウイジャヤ大学 (Brawijaya University)	2008.04.15	有
	ガジャマダ大学 (Gadjah Mada University)	2008.10.14	
	ボゴール農科大学 (Bogor Agricultural University)	2010.03.10	
	ウダヤナ大学 (Udayana University)	2010.03.25	
	バンドン工科大学 (Bandung Institute of Technology)	2012.05.25	有
	インドネシア大学 (University of Indonesia)	2015.12.16	有
韓国	仁荷大学校 (Inha University)	1998.06.25	有
	公州大学校 (Kongju National University)	1999.03.15	有
	韓国外国語大学校 (Hankuk University of Foreign Studies)	2003.12.02	有
	慶尚大学校 (Gyeongsang National University)	2004.11.26	有
	ソウル市立大学校 (University of Seoul)	2009.12.21	有
	昌原大学校 (Changwon National University)	2010.02.10	有
	ソウル大学校 (Seoul National University)	2010.02.11	有
	亜州大学校 (Ajou University)	2010.03.08	有
	梨花女子大学校 (Ewha Womans University)	2010.03.08	有
	群山大学校 (Kunsan National University)	2010.04.26	有
	釜山外国語大学校 (Busan University of Foreign Studies)	2014.12.04	有
	全北大学校 (Chonbuk National University)	2015.09.16	有
タイ	カセサート大学 (Kasetsart University)	1998.07.03	有
	ソンクラ王子大学 (Prince of Songkla University)	2001.10.29	有
	コンケン大学 (Khon Kaen University)	2001.10.30	有
	チェンマイ大学 (Chiang Mai University)	2001.10.31	有
	シーナカリンウィロート大学 (Srinakharinwirot University)	2001.11.01	有
	タイ国農学研究機構 (Agricultural Research Development Agency)	2008.08.27	
	チュラロンコン大学 (Chulalongkorn University)	2010.09.14	
中国	山東大学 (Shandong University)	1983.06.02	有
	北京師範大学 (Beijing Normal University)	2004.02.09	有
	武漢理工大學 (Wuhan University of Technology)	2004.05.20	有
	貴州大学 (Guizhou University)	2005.03.25	有

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
中国	重慶理工大学 (Chongqing University of Technology)	2010.11.19	有 (工学部)
	首都師範大学 (Capital Normal University)	2011.10.17	有
	江蘇大学 (Jiangsu University)	2013.09.03	有
	大連外国語大学 (Dalian University of Foreign Languages)	2013.12.30	有
	西安交通大学 (Xi'an Jiaotong University)	2015.04.28	有
	香港樹仁大学 (Hong Kong Shue Yan University)	2015.07.20	有
	香港教育大学 (The Education University of Hong Kong)	2015.09.02	有
	遼寧師範大学 (Liaoning Normal University)	2016.03.15	有
台湾	国立中興大学 (National Chung Hsing University)	2006.03.09	有
	東海大学 (Tunghai University)	2009.09.30	有
	逢甲大学 (Feng Chia University)	2009.09.30	有
	大葉大学 (Dayeh University)	2009.09.30	有
	靜宜大学 (Providence University)	2009.09.30	有
	開南大学 (Kainan University)	2012.10.15	有
	高雄師範大学 (National Kaohsiung Normal University)	2014.11.18	有
ベトナム	教育訓練省 国際教育開発局 (Vietnam International Education Development, Ministry of Education and Training)	2009.03.30	有 (相互協力附属書)
	カントー大学 (Can Tho University)	2011.11.16	有
	ベトナム国立農業大学 (Vietnam National University of Agriculture)	2012.03.29	有
	ベトナム国家大学ホーチミン市校 国際大学 (International University - Vietnam National University in Ho Chi Minh City)	2015.07.21	有
	国立ハノイ教育大学 (Hanoi National University of Education)	2015.07.22	有
	東部国際大学 (Eastern International University)	2015.12.07	有
マレーシア	サラワク大学 (University Malaysia Sarawak)	2012.03.29	有
	マレーシア工科大学 (University of Technology, Malaysia)	2012.09.05	有
ラオス	ラオス国立大学 (National University of Laos)	2012.04.12	有
ミャンマー	イエジン農業大学 (Yezin Agricultural University)	2015.01.12	
イギリス	シェフィールド大学 (University of Sheffield)	1997.11.28	有 (教育学部)
	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (University College London)	2007.11.19	有 (工学部)
	セントラル・ランカシャー大学 (University of Central Lancashire)	2012.11.05	(協定書内に学生交流 に関する記載有)

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク大学 (Friedrich-Alexander University Erlangen-Nuremberg)	2003.03.17	有
	ホフ大学 (Hof University of Applied Sciences)	2015.03.16	有
	ベルリン・ボイト工科大学 (Beuth University of Applied Sciences Berlin)	2015.08.17	有
フランス	シャルル ド ゴール リール第3大学 (Charles de Gaulle University-Lille III)	2015.10.16	有
	カトリック・ド・リール大学 (Lille Catholic University)	2016.01.20	有
スペイン	サラゴサ大学 (University of Zaragoza)	2014.11.27	有 (工・共同獣医)
	バルセロナ自治大学 (Autonomous University of Barcelona)	2015.09.14	
ハンガリー	エトヴェシュ・ロラード大学 (Eotvos Lorand University)	2015.05.25	(協定書内に学生交流 に関する記載有)
	カーロリ大学 (Károli Gáspár University of the Reformed Church in Hungary)	2015.08.18	
ロシア	モスクワ大学 (M.V. Lomonosov Moscow State University)	2015.03.05	
	モスクワ工業大学 (Moscow Technological University)	2015.11.26	
リトアニア	ヴィータウタス・マグヌス大学 (Vytautas Magnus University)	2015.09.03	有
エジプト	カイロ大学 (Cairo University)	2012.02.12	
アメリカ 合衆国	オクラホマ大学 (University of Oklahoma)	1996.02.19	有
	ハワイ大学ヒロ校 (University of Hawai'i at Hilo)	2015.02.25	
	中央フロリダ大学 (University of Central Florida)	2015.04.16	
	カリフォルニア州立大学ポリテクニク大学ポモナ校 (California State Polytechnic University, Pomona)	2015.03.20	
	フィッチバーグ州立大学 (Fitchburg State University)	2015.12.21	有
カナダ	リジャイナ大学 (University of Regina)	1996.02.07	有
チリ	バルバライソ大学 (University of Valparaiso)	2015.07.02	有
	コンセプション大学 (University of Concepcion)	2016.01.13	有
オースト ラリア	ニューカッスル大学 (University of Newcastle)	2003.08.08	有 (工学部)
	シドニー工科大学 (University of Technology, Sydney)	2012.05.30	有
	サザンクロス大学 (Southern Cross University)	2015.08.20	
ニュージ ーランド	リンカーン大学 (Lincoln University)	2015.11.11	有

(3) 部局等間学術交流協定

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結 年月日	学生 交流 覚書
インド ネシア	工学部	マランイスラム大学 医学部 (Faculty of Medicine, Islamic University of Malang)	2014.06.27	
		マランイスラム大学 農学部 (Faculty of Agriculture, Islamic University of Malang)	2014.06.27	
		マランイスラム大学 工学部 (Faculty of Engineering, Islamic University of Malang)	2015.07.31	
		リアウ大学 工学部 (Faculty of Engineering, Riau University)	2014.12.24	有
韓国	教育学部	釜山大学校 教育学部 (College of Education, Pusan National University)	2010.06.21	
	理学部	韓国天文研究院 電波天文研究部 (Radio Astronomy Division, Korea Astronomy and Space Science Institute)	2010.03.15	
	工学部	忠北大学校 工学部 (College of Engineering, Chungbuk National University)	2001.10.10	
		又松大学校 鉄道物流学部 (College of Railroad and Transportation, Woosong University)	2010.02.01	
タイ	医学部	マヒドン大学 看護学部 (Faculty of Nursing, Mahidol University)	2001.03.26	
	農学部	キングモンクット工科大学 トンブリ校 生物資源工学研究科 (School of Bioresources and Technology, King Mongkut's University of Technology Thonburi)	2006.05.23	有
		タクシン大学 技術・地域開発学部 Faculty of Technology and Community Development, Thaksin University)	2012.01.16	
		メージョー大学 農学生産学部 (Faculty of Agricultural Production, Maejo University)	2012.02.23	有
		ラジャマンガラ工科大学 農業産業技術学部 (Faculty of Agro-Industrial Technology, Rajamangala University of Technology Tawan-ok)	2013.07.11	有
		メーファールアン大学 理学部 (School of Science, Mae Fah Luang University)	2016.01.04	
中国	教育学部	復旦大学 情報科学工程学院 (School of Information Science and Engineering, Fudan University)	2005.09.23	有
	経済学部	遼寧大学 経済管理学院 (School of Economics, Liaoning University)	1996.10.17	
		中国人民大学 经济学院 (School of Economics, Renmin University of China)	2001.06.03	有
	医学部	吉林大学 中日友好病院 (China-Japan Union Hospital of Jilin University)	2009.09.25	
		大連医科大学 (Dalian Medical University)	2006.12.14	
	工学部	上海交通大学 環境科学与工程学院 (School of Environmental Science and Engineering, Shanghai Jiao Tong University)	2004.02.11	
		西華大学 (Xihua University)	2007.02.05	有
	農学部	新疆畜牧科学院 (Xinjiang Academy of Animal Science)	1991.09.02	
		東北師範大学 環境学院 (School of Environment, Northeast Normal University)	2010.04.15	
	国際総合 科学部	山東農業大学 外国語学院 (College of Foreign Languages, Shandong Agricultural University)	2016.03.15	有
	東アジア 研究科	復旦大学 日本研究センター (Center for Japanese Studies, Fudan University)	2001.10.29	
	台湾	経済学部	国立高雄餐旅大学 (National Kaohsiung University of Hospitality and Tourism)	2012.03.09
医学部		国立台湾大学 医学院 (College of Medicine, National Taiwan University)	2009.04.01	

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結年月日	学生交流 覚書
台湾	教育学部	淡江大学 文学院 (College of Liberal Arts, Tamkang University)	2013.07.23	有
	東アジア研究科	淡江大学 亜洲研究所 (Graduate Institute of Asian Studies, Tamkang University)	2014.04.01	
	人文学部	東呉大学 人文社会学部 (School of Liberal Arts and Social Sciences, Soochow University)	2014.09.19	
モンゴル	共同獣医学部	モンゴル国立生命科学大学獣医学研究所 (Institute of Veterinary Medicine, Mongolian University of Life Sciences)	2015.11.13	
ネパール	連合獣医学研究科	農業林業大学 畜産獣医水産学部 (Faculty of Animal Science, Veterinary Science and Fisheries, Agriculture and Forestry University)	2015.03.05	
バングラ デシュ	理学部	バングラデシュ核エネルギー食物・放射線生物学研究所 (Institute of Food and Radiation Biology, Atomic Energy Research Establishment)	2000.05.04	
	農学部	ジャハンギナガル大学 生物科学部 (Faculty of Biological Science, Jahangirnagar University)	2012.03.06	
ベトナム	共同獣医学部	ベトナム農業農村開発省畜産研究所 (National Institute of Animal Science, Ministry of Agriculture and Rural Development)	2012.07.24	
スリラン カ	農学部	サバラガムア大学 農学部 (Faculty of Agricultural Sciences, Sabaragamuwa University of Sri Lanka)	2014.01.23	有
		スリランカ農業局及びペラデニア大学農学研究科 (Department of Agriculture, Sri Lanka & Postgraduate Institute of Agriculture, University of Peradeniya)	2016.03.03	
トルコ	工学部	ダムルピナー大学 工学部 (Faculty of Engineering, Dumlupinar University)	2015.05.20	
ウクライ ナ	教育学部	イヴァン・フランク記念リヴィウ国立大学 (Ivan Franko National University of L'viv)	2004.11.16	有
イギリス	工学部	ブリストル大学 工学部 (Faculty of Engineering, University of Bristol)	2010.03.01	
ロシア	医学部	カザン医科大学 (Kazan State Medical University)	2012.12.17	
ポルトガ ル	工学部	新リスボン大学 理工学部 (Faculty of Science and Technology, New University of Lisbon)	2013.08.08	有
フランス	工学部	ボルドー大学 (University of Bordeaux)	2014.03.11	有
スペイン	工学部	カンタブリア大学 産業工学通信学部 (School of Industrial Engineering and Telecommunications, University of Cantabria)	2015.02.25	有
スイス	国際総合科学部	ベルン応用科学大学経営管理学部 (School of Business, Bern University of Applied Sciences)	2015.09.03	有
アメリカ 合衆国	医学部	バージニア大学 看護学部 (School of Nursing, University of Virginia)	2000.11.06	
	国際総合科学部	エルジンコミュニティカレッジ (Elgin Community College)	2015.07.28	(協定書内に 学生交流に 関する記載有)
ブラジル	理学部	パウリスタ総合大学 (Paulista State University)	2001.10.31	有
アルゼン チン	農学部	ラプラタ大学 理学部 (Faculty of Science, National University of La Plata)	2011.04.27	
オースト ラリア	教育学部	キャンベラ大学 (University of Canberra)	1994.03.15	
	連合獣医学研究科	西オーストラリア大学 農学研究科 (The UWA Institute of Agriculture, University of Western Australia)	2015.10.22	
ニュージ ーランド	農学部	ニュージーランド作物・食物研究所 (New Zealand Institute for Plant & Food Research Limited)	2008.09.03	

4. 海外拠点

最近では多くの日本の大学が、留学生募集や、海外の大学との共同研究拠点、共同授業の提供などを目的として、海外に事務所を開設するようになった。山口大学でも交流協定校との連携協力によるサテライトオフィスを2004年10月に中国の北京師範大学、2005年3月に山東大学に設置してきた。

2009年度には、海外拠点の実質化を目指すとともに、拠点事務所を増やすとの方針で、先の2大学にインドネシア、台湾の3大学を加えた。

さらに、2011年度に北京の首都師範大学内に、2014年度にクアラルンプールのマレーシア工科大学内に拠点事務所を設置し、以下のとおり計6拠点の体制とした。

- ① 「山口大学 北京国際連携オフィス」
住所：中国 100875 北京市新街口外大街 19 号 北京師範大学内
- ② 「山口大学 北京国際連携オフィス」
住所：中国 100048 北京市海淀区西三環北路 83 号 首都師範大学内
- ③ 「山口大学 山東国際連携オフィス」
住所：中国 250100 山東省済南山大南路 27 号 山東大学内
- ④ 「山口大学 バリ国際連携オフィス」
住所：Udayana University
Jl.P.B Sudirman Campus Gedung FISIP 2F Denpasar Bali Indonesia
【<http://yamaguchi.unud.ac.id/home>】
- ⑤ 「山口大学 台湾国際連携オフィス」
住所：台湾 51591 彰化県大村郷学府路 168 号 大葉大学内
【<http://yuicot.dyu.edu.tw/>】
- ⑥ 「山口大学 クアラルンプール国際連携オフィス」
住所：Malaysia-Japan International Institute of Technology (MJIIT)
Universiti Teknologi Malaysia Kuala Lumpur Campus
Jalan Sultan Yahya Petra, 54100, Kuala Lumpur Malaysia



台湾国際連携オフィス



クアラルンプール国際連携オフィス

5. 本部への海外からの来訪者

(1)本部への海外からの来訪者一覧

日時	訪問者	国・地域名
2015.4.3	日仏協会在京都フランス領事館 総領事 シャルランリ・ブロンソー	フランス
2015.4.16	中央フロリダ大学 教授 原 忠之	アメリカ
2015.4.27	駐日バングラデシュ大使館 経済公使 Jiban Ranjan Majumder	バングラデシュ
2015.5.21	サザンクロス大学 カントリーマネージャー 新木和広 氏	オーストラリア
2015.7.9	エルジンコミュニティカレッジ 講師 中川美穂 (Japanese Instructor, Modern Language Department)	アメリカ
2015.7.30	在日ペルー大使館 参事官 マリオ・ブスタマンテ	ペルー
2015.8.28	忠北大学校 教授 Doo-Hyun Kim	韓国
2015.9.8	①技術応用評価庁 プログラムマネージャー, Fadli Syamsudin 減災担当長, Udrekh ②バンドン工科大学 教授 Imam Achmad Sadisun ③ウダヤナ大学 教授 Ir.IG.P.Wirawan	インドネシア
2015.9.16	全北大学校 学長 Lee Nam Ho, 国際担当副学長 Choi Yong Jun	韓国
2015.9.30	西オーストラリア大学 教授 クレアム・マーチン	オーストラリア
2015.10.9	江蘇大学 副学長 梅 强 京江学部長 路正南 電気情報学部長 刘国海 国際センター科長 黄 婷	中国
2015.10.14	ベトナム国立農業大学 学長 Nguyen Thi Lan	ベトナム
2015.10.19	サラゴサ大学 獣医学部 前学部長 Jesus Garcia Sanchez	スペイン
2015.10.26	ペルー山口県人協会 相談役 藤井隆彦	ペルー
2015.11.6	釜山外国語大学 国際交流センター 副所長 平中ゆかり	韓国
2015.11.9	ノーザン・ブリティッシュコロンビア大学 学科長 Ken Wilkening	カナダ
2015.11.11/11.16	モスクワ工業大学 学長 Alexander Sigov	ロシア
2015.11.12	メージョー大学 学長 Chamnian Yosraj 国際担当副学長 Yongyooth Srigiofun 研究及びネットワーク担当副学長 Pawin Manochai 農業者	タイ

	産学部長 Ruangchai Juwattanasamran 農産業工学部長 Umaporn Upara 再生エネルギー学部長 Natthawud Dussadee	
2015.11.13	ニューカッスル大学 コーディネーター Anchi Baxter	オーストラリア
2015.11.27	セントラルランカシャー大学 講師 天野 貴子	イギリス
2015.11.24	重慶理工大学 国際担当副学長 许洪斌	中国
2015.12.16	山東大学 SD 研修職員 学生工作部 副部長 傅艺娜	中国
2016.2.3	在福岡米国領事館 総領事 ユーリー・フェッジキフ	アメリカ
2016.2.16	高雄師範大学 准教授 劉 淑恵	台湾



全北大学校 学長表敬訪問及び調印式



メージョー大学 学長表敬訪問

6. 本学学長の海外訪問

訪問日程	訪問先・内容（訪問者）	国・地域名
2015.8月	SPIED プログラム出席（群山大学校） 梨花女子大学校訪問	韓国
2016.2月	JICA マレーシア事務所訪問 クアラルンプール国際連携オフィス訪問 MJIT 訪問 山口大学海外同窓会マレーシア支部設立総会出席	マレーシア

7. その他

(1)国際協力活動推進プラットフォーム

国際協力活動に関心を有する山口大学教職員の有志が、地域を含めた国際協力活動の推進役としての役割を担う目的で、2007年11月に「国際協力活動推進プラットフォーム」を発足している。発足以来、国際協力関係有識者による講演、意見交換会の開催、国際協力事業説明会の開催、会員の海外派遣(各種調査、協力活動)、研究者の招へい、会員の国際協力関係の研修参加等を行っていたが、予算の関係上、国際協力活動推進プラ

ットフォーム制度の継続が困難となったため、今後は山口国際協力の里を中心とした外部資金の獲得に向けた支援に焦点を絞ることとなった。

(2)国際会議，国際シンポジウムの開催

山口大学の教員・研究者が海外の大学を訪問し，また海外で開催される各種学会・シンポジウム等に参加するばかりでなく，海外の研究者，要人が参加する国際シンポジウム等を，山口大学が中心となって大学や周辺地域において開催する機会が年々増えてきている。2015年度においては次表のとおり講演会を開催した。

国際シンポジウム等開催状況（2015年度）

	名称	期日
1	山口大学「国際協力の里」特別講演会 「学生と大学のグローバル化に関して」	2015/11/24（火）
2	山口大学「国際協力の里」特別講演会 「日米関係－10年後の姿」	2016/2/3（水）

(3)政府開発援助（ODA）との連携

山口大学では，「国際協力銀行」（ODA担当部門は，2008年10月に「国際協力機構（JICA）」と統合した。）との間で，2004年5月7日に「国際協力銀行と山口大学との海外経済協力分野に関する協力協定書」を締結し，また教育学部，経済学部がJICA（中国国際センター）との間で2006年3月27日に「JICA中国国際センターと山口大学との連携協力覚書」を締結している。（※これらは「独立行政法人国際協力機構と山口大学との間の連携協定」に1本化し，本学学長とJICA理事長の間で2010年6月1日に署名・締結し，2015年6月1日に更新した。）

こうしたODA実施機関との連携も踏まえ，山口大学は現在まで以下のとおりODA事業の実施に協力してきており，2015年度における実績は以下のとおりである。

- ・無償資金協力による留学生受入(JDSプログラム)：2002年以降毎年JDSプログラムによる留学生を受け入れており，2015年度は，バングラデシュから5名，ラオスから2名の留学生を受け入れた。現在までにバングラデシュから36名，インドネシアから3名，フィリピン1名，ラオス6名，ミャンマー2名の計48名受入れている。(在生を含む。)
- ・技術協力による留学生受入：未来への懸け橋・中核人材育成プロジェクト（PEACEプロジェクト）により，アフガニスタンからの留学生受入れを，2012年度から開始し，現在までの総受入れ人数は7名である。
- ・研修員受入：工学部において短期研修員(東ティモール，3名)。
経済学部において国別研修による研修員（バングラデシュ，18名）
- ・JICA協力授業：経済学部において「国際協力論」を開講。JICAより職員，専門家庭験者，協力隊帰国隊員の講師派遣。本授業は2006年度から開講している。

- ・青年海外協力隊：学生を対象とする特別募集説明会の開催，協力隊募集ポスターの掲示。自主活動ルームコーディネーター，国際戦略室教員による希望学生指導。帰国者による報告会の開催。
- ・ODA 資金による，中小企業の海外展開支援（多機能フィルター(株)のインドネシアでの展開）

(4) ODA 事業との連携実績

①留学生受け入れ

プロジェクト	受入学部・研究科	対象国・地域
○人材育成支援無償（JDS）による留学生の受入	経済学研究科	バングラデシュ
○有償資金協力（円借款）による留学生の受入		
・高等教育基金借款事業（III）	工学部	マレーシア
・国立イスラム大学	医学系研究科	インドネシア
・高等人材開発事業（III）	理工学研究科	インドネシア

②技術協力プロジェクト

プロジェクト	形態	分野	対象国・地域
カンボジア日本人材開発センター（H16年4月1日～H21年3月31日）	技術協力	民間セクター開発	カンボジア
ラオス日本人材開発センター(2)ビジネス分野活動等支援（第1次）（H20年12月～H21年9月）	技術協力	民間セクター開発	ラオス
天然ゴム産業の振興と金融機能に係る提案型調査（H19年度）	円借款	民間セクター開発	カンボジア
貴州省における人材育成プログラム開発に係る提案型調査	円借款	人材育成	中国
東ティモール大学工学部能力向上プロジェクトへの協力	技術協力	人材育成	東ティモール

③専門家派遣

プロジェクト	形態	派遣期間	対象国・地域
個別専門家（初中等教育計画）	長期	2005年1月～ 2007年1月	フィリピン

理数科教員養成（生物教育）	短期	2005年8月～9月	ラオス
経済法（企業関連法）整備支援終了時評価調査	短期	2007年11月～12月	中国
法制度整備支援基礎情報収集・確認調査	短期	2009年1月～2月	ラオス
民間セクター振興プログラム	短期	2008年3月	カンボジア
持続可能な地域観光振興	短期	2008年4月～5月	ドミニカ
平成18年度 円借款事業事後評価業務	短期		中国
東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2010年10月 2011年3月	東ティモール
タンザニア国灌漑農業技術普及支援体制強化計画運営指導調査	短期	2011年2月	タンザニア
東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2011年11月 2012年3月	東ティモール
マレーシア日本国際工科院技術経営学部のカリキュラム設定、教員募集についての協議に係る調査	短期	2012年1月	マレーシア
東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2012年8月 2013年3月	東ティモール
ミャンマー法整備支援詳細計画策定調査	短期	2012年12月	ミャンマー
東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2013年8月 2013年9月 2013年12月 2014年1月 2014年3月	東ティモール

タンザニア国コメ振興支援計画プロジェクト運営指導調査	短期	2013年10月	タンザニア
東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2014年9月 2014年10月 2015年2月 2015年3月	東ティモール
タンザニア国コメ振興支援計画プロジェクト運営指導調査	短期	2014年6月	タンザニア
東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2015年8月 2015年9月 2015年10月	東ティモール
タンザニア国コメ振興支援計画プロジェクト運営指導調査	短期	2015年9月	タンザニア

④研修員受入

コース名	形態	受入期間	国・地域名
花キ園芸	個別	1996年3月～12月	ケニア
地震観測システム	個別	1996年12月～1997年3月	トルコ
地震解析	個別	1996年12月～1997年3月	トルコ
環境工学	個別	1997年3月～7月	インドネシア
地震観測システム	個別	1998年3月～5月	トルコ
獣医学（小型動物内視鏡）	日系個別	1998年4月～1999年4月	ブラジル
消化器内視鏡	個別	1999年1月～2月	アルゼンチン
節水灌漑	個別	1999年3月～6月	中国

看護学	日系個別	1999年4月～ 2000年3月	ブラジル
カロチン抽出分離	個別	1999年8月～ 10月	マレーシア /2名
土地水質源管理学	個別	2001年8月～ 11月	ベトナム
土地資源管理	長期研修	2001年9月	ベトナム
繁殖ホルモン測定技術の応用	個別	2004年8月～9 月	ベトナム
現職教員研修	集団	2005年10月～ 11月	フィリピン
高品質肉牛の管理と繁殖	日系個別	2009年5月～ 2010年2月	ブラジル
稲研究人材育成	長期研修	2009年9月～ 2011年8月	タンザニア
参加型農村開発	短期	2009年10月	バングラデ シュ/2名
高品質勝久野効率的・効果的な生産、繁殖、衛生管理のための獣医・畜産学的なビジョン	日系個別	2011年5月～ 2012年2月	ボリビア
東ティモール国立大学工学部土木学科教官短期研修	短期	2011年11月	東ティモ ール
高品質家畜の効率的・効果的な生産、繁殖、衛生管理のための獣医・畜産学的な新ビジョン	日系個別	2012年5月～ 2013年2月	ペルー
東ティモール国立大学工学部土木学科教官短期研修	短期	2012年10月	東ティモ ール
東ティモール国立大学工学部土木学科教官短期研修	短期	2013年7月～8 月 2014年2月	東ティモ ール
バングラデシュ地方行政能力強化研修	国別	2013年9月	バングラデ シュ
バングラデシュ地方行政能力強化研修	国別	2014年5月	バングラデ シュ
バングラデシュ地方行政能力強化研修	国別	2015年9月	バングラデ シュ
和牛等の高品質家畜生産のための効率的・効果的な生産、繁殖、健康管理	日系個別	2015年5月～ 2016年2月	ブラジル

⑤ JICA 協力授業

- ・国際協力論 JICA の歩みと役割他（各年 3～5 コマ）経済学部
- ・国際協力概論 開発途上国の現状と課題，有償資金協力の仕組みと課題，有償資金協力の事例紹介（各年 2 コマ）工学部

(5) 研究者の交流

大学の主要な活動である研究においては，十分なデータの収集，研究データの交換による研究の加速化と精度の向上は不可欠であり，毎年多くの教員，研究者が海外に派遣され，また山口大学でも多くの海外の大学教員，研究者を受け入れている。国際研究・教育ネットワークを通して，共同研究，シンポジウムの開催，授業の相互提供といった活動が行われている。

2015 年度には延べ 992 人の教員が海外に派遣され，合計 60 人の海外からの研究者を受け入れた。

(6) 職員の研修

①山口大学海外派遣 SD（スタッフ・ディベロップメント）研修

山口大学教育研究後援財団の支援を受け，毎年以下のとおり事務系職員を 1 週間程度海外に派遣し，海外の大学における管理方法，研究・教育支援体制を学ぶほか，外国語能力の向上に努めている。

なお，2012 年度に工学部が文部科学省グローバル人材育成推進事業に採択されたことに伴い，事務系職員の国際マインドの養成を目的として，派遣者枠を拡大した。

- ・2005 年度：2 名（米国・ハワイ大学，英国・シェフィールド大学）
- ・2006 年度：2 名（カナダ・リジャイナ大学，ドイツ・エアランゲン大学）
- ・2007 年度：2 名（米国・オクラホマ大学，豪州・ニューカッスル大学）
- ・2008 年度：2 名（中国・山東大学及び香港中文大学）
- ・2009 年度：2 名（中国・山東大学）
- ・2010 年度：4 名（中国・山東大学，台湾・大葉大学外，インドネシア・ウダヤナ大学）
- ・2011 年度：3 名（中国・山東大学，インドネシア・ガジャマダ大学）
- ・2012 年度：4 名（中国・山東大学，台湾・大葉大学，インドネシア・ガジャマダ大学）
- ・2013 年度：13 名（中国・山東大学，台湾・大葉大学，インドネシア・ウダヤナ大学，ベトナム・ハノイ農業大学，カントー大学，タイ・カセサート大学，ラジャマンガラ工科大学）
- ・2014 年度：16 名（中国・山東大学，台湾・大葉大学，インドネシア・ウダヤナ大学，ガジャマダ大学，オーストラリア・シドニー工科大学，ニューカッスル大学，カナダ・リジャイナ大学，タイ・チェンマイ大学，シーナカリンウィロート大学，マレーシア・マレーシア工科大学，マレーシア日本国際工科院）

- ・2015年度：13名（中国・山東大学，台湾・大葉大学，東海大学，静宜大学，タイ・チュラロンコン大学，カセサート大学，マレーシア・マレーシア日本国際工科院，マレーシア工科大学，インドネシア・バンドン工科大学，ウダヤナ大学，国際交流基金ジャカルタ日本文化センター・インドネシア大学，ダルマプルサダ大学，オーストラリア・ニューカッスル大学，シドニー工科大学，イギリス・ブリストル大学，サリー大学，セントラルランカシャー大学，JSPS ロンドン，ドイツ・エアランゲン大学）

②山口大学業務英語能力向上研修

外国人留学生及び研究者の生活，教育，研究の支援や，部局等の国際交流を担当できる事務職員の育成を目指し，2010年度から，外国人対応の業務に必要なコミュニケーション及び英語能力向上研修として，ネイティブスピーカー講師による英会話訓練を行っている。2015年度からは，グローバル人材育成推進事業の一環で設置された工学部のグローバル技術者養成センターと共同で研修を実施し，同年度には24名が本研修に参加した。

(7) 学内の国際化推進体制の整備

国際化推進を目的として，外国人留学生・研究者の渡日後の生活支援のための「外国人留学生・外国人研究者サポートオフィス」を，2010年12月吉田地区で試行実施で設置した。翌2011年6月には，アドバイザー2名（吉田地区1名，宇部地区1名）を配置し，サポートオフィスを本格稼働させ，外国人留学生・研究者の渡日，入学，入学後の各種支援体制を整えた。

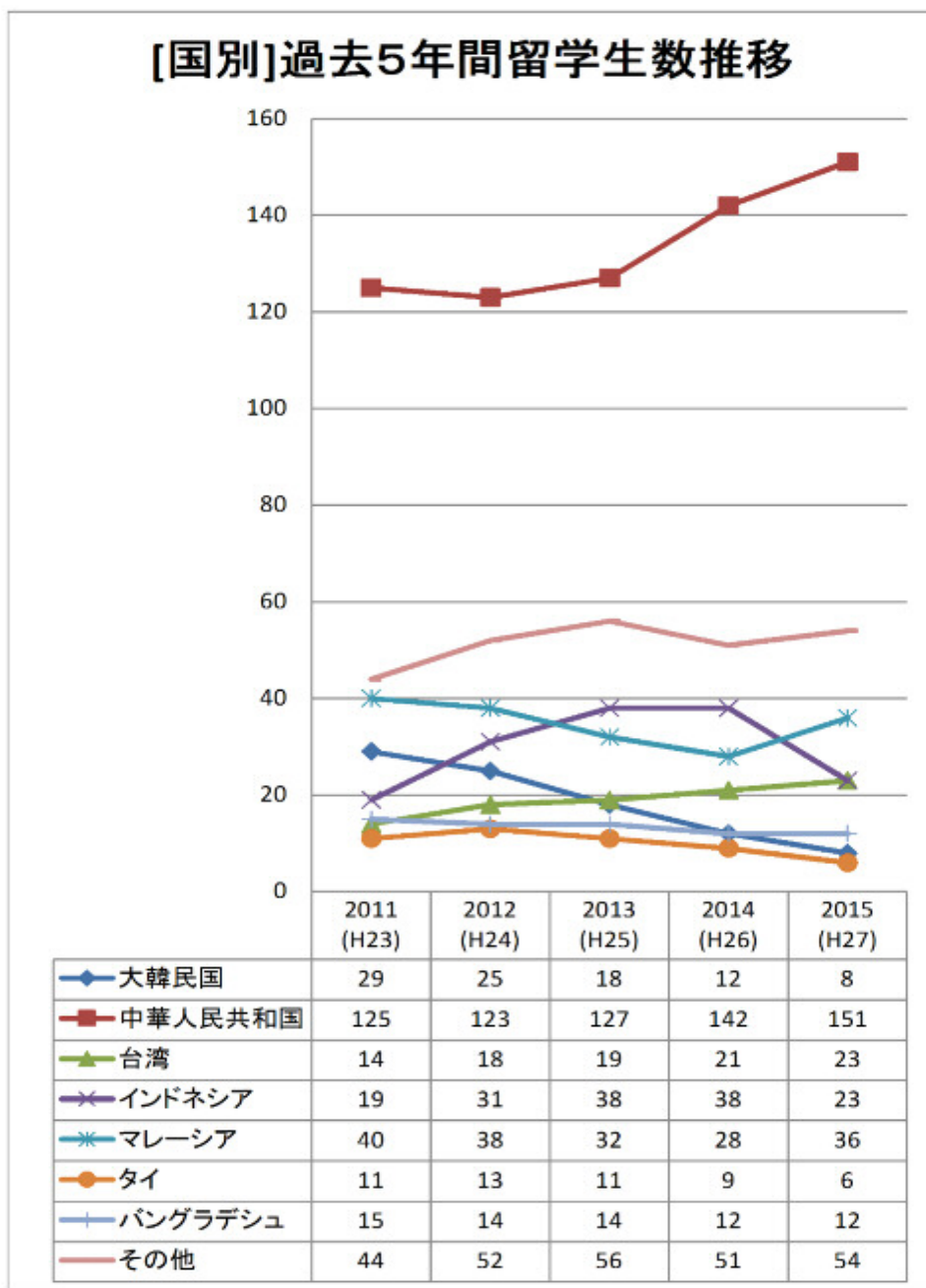
また，2014年度，国際戦略室において「優秀な留学生確保に関するWG」「学生の海外派遣推進に関するWG」「外国人留学生同窓会に関するWG」の3つのWGを立ち上げ，提言を行った。

(8) 留学生の促進策

留学生への経済的支援を図るため，山口大学教育研究後援財団の支援を受けて外国人留学生奨学事業の創設を行った。

また，山東大学，貴州大学，大連外国語大学における渡日前入試（経済学研究科）も実施した。北京国際連携オフィスを活用しての渡日前入試（創成科学研究科）については，設置認可の遅れもあり，公募が十分にできず，志願者が確保できなかった。

(参考) 出身国・地域別留学生数の推移



(参考) 学術交流協定に基づく交換留学生数

学術交流協定校から(へ)の留学生数(2016.3.31現在)

エリア区分	国・地域	協定校	協定分野	学術交流協定校数	協定分野別留学生数(1学期)	協定分野別留学生数(1学期)	交換留学生数					合計	
							H21	H22	H23	H24	H25		
							2011	2012	2013	2014	2015	2016	
							派遣	入国	派遣	入国	派遣	入国	派遣
アジア	中国	北京師範大学	教育学部	有	3	2							2
		北京航空航天大学	工学部	有	3								
		北京理工大学	工学部	有	3								
		北京交通大学	工学部	有	3								
		北京邮电大学	工学部	有	3								
		北京语言大学	言語学	有	3								
		北京工商大学	工学部	有	3								
		北京服装学院	工学部	有	3								
		北京印刷学院	工学部	有	3								
		北京信息科技大学	工学部	有	3								
アジア	韓国	延世大学	工学部	有	3								
		慶熙大学	工学部	有	3								
		梨花女子大学	工学部	有	3								
		釜山大学	工学部	有	3								
		蔚山大学	工学部	有	3								
		忠清南道大学	工学部	有	3								
		全南大学	工学部	有	3								
		全北大学	工学部	有	3								
		釜山国立大学	工学部	有	3								
		大邱国立大学	工学部	有	3								
アジア	タイ	マサチューセッツ工科大学	工学部	有	3								
		シリコンバレー州立大学	工学部	有	3								
		サンディエゴ州立大学	工学部	有	3								
		カリフォルニア州立大学	工学部	有	3								
		アリゾナ州立大学	工学部	有	3								
		テキサスA&M大学	工学部	有	3								
		オハイオ州立大学	工学部	有	3								
		ペンシルベニア州立大学	工学部	有	3								
		イリノイ大学	工学部	有	3								
		ミシシッピ州立大学	工学部	有	3								
アジア	インド	インド国立工科大学	工学部	有	3								
		インド国立工科大学	工学部	有	3								
		インド国立工科大学	工学部	有	3								
		インド国立工科大学	工学部	有	3								
		インド国立工科大学	工学部	有	3								
		インド国立工科大学	工学部	有	3								
		インド国立工科大学	工学部	有	3								
		インド国立工科大学	工学部	有	3								
		インド国立工科大学	工学部	有	3								
		インド国立工科大学	工学部	有	3								
アジア	東南アジア	マレーシア国立大学	工学部	有	3								
		シンガポール国立大学	工学部	有	3								
		タイ国立工科大学	工学部	有	3								
		インドネシア国立工科大学	工学部	有	3								
		フィリピン国立工科大学	工学部	有	3								
		ベトナム国立工科大学	工学部	有	3								
		ラオス国立工科大学	工学部	有	3								
		ミャンマー国立工科大学	工学部	有	3								
		カンボジア国立工科大学	工学部	有	3								
		タイ国立工科大学	工学部	有	3								
アジア	オーストラリア	メルボルン国立工科大学	工学部	有	3								
		シドニー国立工科大学	工学部	有	3								
		ブリスベン国立工科大学	工学部	有	3								
		パース国立工科大学	工学部	有	3								
		メルボルン国立工科大学	工学部	有	3								
		シドニー国立工科大学	工学部	有	3								
		ブリスベン国立工科大学	工学部	有	3								
		パース国立工科大学	工学部	有	3								
		メルボルン国立工科大学	工学部	有	3								
		シドニー国立工科大学	工学部	有	3								
アジア	ニュージーランド	オークランド国立工科大学	工学部	有	3								
		ウェリントン国立工科大学	工学部	有	3								
		ダニディン国立工科大学	工学部	有	3								
		クライストチャーチ国立工科大学	工学部	有	3								
		オークランド国立工科大学	工学部	有	3								
		ウェリントン国立工科大学	工学部	有	3								
		ダニディン国立工科大学	工学部	有	3								
		クライストチャーチ国立工科大学	工学部	有	3								
		オークランド国立工科大学	工学部	有	3								
		ウェリントン国立工科大学	工学部	有	3								
アジア	南米	ブラジル国立工科大学	工学部	有	3								
		コロンビア国立工科大学	工学部	有	3								
		ペルー国立工科大学	工学部	有	3								
		チリ国立工科大学	工学部	有	3								
		ブラジル国立工科大学	工学部	有	3								
		コロンビア国立工科大学	工学部	有	3								
		ペルー国立工科大学	工学部	有	3								
		チリ国立工科大学	工学部	有	3								
		ブラジル国立工科大学	工学部	有	3								
		コロンビア国立工科大学	工学部	有	3								
アジア	中東	トルコ国立工科大学	工学部	有	3								
		イラン国立工科大学	工学部	有	3								
		サウジアラビア国立工科大学	工学部	有	3								
		エジプト国立工科大学	工学部	有	3								
		トルコ国立工科大学	工学部	有	3								
		イラン国立工科大学	工学部	有	3								
		サウジアラビア国立工科大学	工学部	有	3								
		エジプト国立工科大学	工学部	有	3								
		トルコ国立工科大学	工学部	有	3								
		イラン国立工科大学	工学部	有	3								
アジア	アフリカ	ナイロビ国立工科大学	工学部	有	3								
		ヨハネスブルグ国立工科大学	工学部	有	3								
		ケープタウン国立工科大学	工学部	有	3								
		プレトリア国立工科大学	工学部	有	3								
		ナイロビ国立工科大学	工学部	有	3								
		ヨハネスブルグ国立工科大学	工学部	有	3								
		ケープタウン国立工科大学	工学部	有	3								
		プレトリア国立工科大学	工学部	有	3								
		ナイロビ国立工科大学	工学部	有	3								
		ヨハネスブルグ国立工科大学	工学部	有	3								
アジア	北米	カナダ国立工科大学	工学部	有	3								
		アメリカ国立工科大学	工学部	有	3								
		メキシコ国立工科大学	工学部	有	3								
		カナダ国立工科大学	工学部	有	3								
		アメリカ国立工科大学	工学部	有	3								
		メキシコ国立工科大学	工学部	有	3								
		カナダ国立工科大学	工学部	有	3								
		アメリカ国立工科大学	工学部	有	3								
		メキシコ国立工科大学	工学部	有	3								
		カナダ国立工科大学	工学部	有	3								
アジア	ヨーロッパ	ドイツ国立工科大学	工学部	有	3								
		フランス国立工科大学	工学部	有	3								
		イタリア国立工科大学	工学部	有	3								
		スペイン国立工科大学	工学部	有	3								
		ドイツ国立工科大学	工学部	有	3								
		フランス国立工科大学	工学部	有	3								
		イタリア国立工科大学	工学部	有	3								
		スペイン国立工科大学	工学部	有	3								
		ドイツ国立工科大学	工学部	有	3								
		フランス国立工科大学	工学部	有	3								
アジア	オセアニア	ニュージーランド国立工科大学	工学部	有	3								
		オーストラリア国立工科大学	工学部	有	3								
		ニュージーランド国立工科大学	工学部	有	3								
		オーストラリア国立工科大学	工学部	有	3								
		ニュージーランド国立工科大学	工学部	有	3								
		オーストラリア国立工科大学	工学部	有	3								
		ニュージーランド国立工科大学	工学部	有	3								
		オーストラリア国立工科大学	工学部	有	3								
		ニュージーランド国立工科大学	工学部	有	3								
		オーストラリア国立工科大学	工学部	有	3								

第2章 2015年度の留学生部門の活動

1. 留学生にリサイクル自転車を贈呈



4月17日（金），国際交流会館で，山口ライオンズクラブ主催による留学生へのリサイクル自転車贈呈式が行われました。

山口ライオンズクラブは，15年前からボランティア活動の一環として，本学の留学生に毎年10台のリサイクル自転車を贈呈しています。

式では，初めに山口ライオンズクラブ会長の佐藤英仁氏から「山口大学から市街地に出るに

は少し遠く，不便なことも多い。この自転車を有意義に活用してください。」と挨拶がありました。続いて，本学留学生センター長の葛崎偉教授から，自転車贈呈に対するお礼とともに，留学生らへ向けて「山口はとても温かいところで，応援してくれている人がたくさんいるということを心の中に留めて，勉強に励んでください。」と激励の言葉が贈られました。その後，佐藤会長から留学生へ自転車の鍵が手渡され，早速嬉しそうに乗っていました。

自転車を受け取った東アジア研究科の王祁閣（おう きかく）さんは「バスや電車は運賃が高く，不便なことも多い。自転車があると行動範囲が広がり，買い物などにも行きやすくなってとても嬉しい。大切にします。」と笑顔で語っていました。



2. 海外の日本留学フェアへ参加しました

独立行政法人日本学生支援機構主催の留学フェアに留学生センターの教員が参加しました。参加した留学フェアは，台湾の高雄市及び台北市，タイのバンコクの計3か所です。

高雄市のフェアでは，18名の参加者が，台北市のフェアでは37名の参加者が個別相談ブースを訪れ，山口大学への留学に関して活発に質問を行っていました。また，高雄市の留学フェアでは，本学の協定校である大葉大学に設置している国際連携オフィスからスタッフ2名が応援に駆け付け，バナーを使ってブースを華やかに飾り付けてくれました。

バンコクのフェアでは，64名の留学希望者がブースを訪れ，具体的な留学計画について相談を行っていました。

山口大学はこれからも、適切な情報を留学希望者へ提供するために、積極的に留学フェアへ参加していきます。

3. 文化交流イベント「図書館でプチ留学！」を開催しました

平成 27 年 12 月 21 日（月）、吉田キャンパス総合図書館アカデミック・フォレストにて、国際総合科学部、留学生センターおよび図書館共催による文化交流イベント「図書館でプチ留学！」を開催しました。

大学のグローバル化が進む中、総合図書館では平成 26 年度に異文化理解や地域交流を深めるための資料を揃えた「文化交流スペース」を設置し、また平成 27 年度から大学教育機構と国際総合科学部により、学生の自律的言語学習の場である「言葉のアトリエ」が運営されています。

今回のイベントは、上記のような学習環境や学習機会を積極的に活用してもらうことを目的に開催したもので、海外留学を計画あるいは関心のある学生等 38 名が参加しました。冒頭、山内直樹図書館長より「海外留学には語学だけではなく自国の文化を学ぶことも重要である。こうした機会を利用してぜひ視野を広げてほしい」との挨拶があり、国際総合科学部 永井涼子准教授による「言葉のアトリエ」の活動紹介や図書館職員による図書館の語学・異文化学習資料の紹介の後、語学学習法をテーマとした「ワールドカフェ」を行いました。

中国、韓国、台湾、イギリス、タイ、ドイツ、フランスの 7 か国 9 名の留学生および教員をテーブルホストに迎えたワールドカフェでは、出身国の文化や語学学習法などを中心に活発な意見交換が行われました。ワールドカフェ終了後、国際総合科学部 仁平千香子助教より、「どの国のテーブルも言葉の壁を越え、みんな楽しそうに交流していた。今回知り合った留学生達と今後も交流を深めていってほしい」との講評がありました。

また、最後に留学生センター 中溝朋子准教授より、「学内には「言葉のアトリエ」や留学生センターが企画するイベントなど様々な語学学習および留学生との交流の機会があるので、それらを積極的に利用し、今後も更に学習を進めてほしい」との言葉が述べられ、イベントは盛況のうちに終了しました。

参加した学生からは、「色々な国の人と話ができて楽しかった」、「語学を勉強するきっかけとなり、モチベーションが高まった」などの感想が聞かれました。



第3章 2015年度の学術研究部門の国際交流活動

1. 独立行政法人日本学術振興会助成

(1) 二国間交流事業 「スロベニア MIZS との共同研究」

独立行政法人日本学術振興会が実施する、海外の学術振興機関（対応機関）と学術の国際協力に関する合意に基づき行う事業。個々の研究者交流を発展させた二国間の研究チームの持続的ネットワーク形成を目指し、日本の大学等の優れた研究者（若手研究者を含む）が相手国の研究者と協力して行う共同研究・セミナーの実施に要する経費の支援を行う。

【研究課題】 バイオナノ粒子の高性能分離を目指したモノリスクロマトグラフィープロセスの開発

【期間】 2014年4月1日～2016年3月31日

【山口大学実施部局】 大学院医学系研究科

【山口大学担当教員】 山本 修一（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】 COBIK（スロベニア）

【相手方参加者】 Ales Podgornik（室長補佐）

【事業概要】

バイオナノ粒子の高効率分離を目指したモノリスクロマトグラフィープロセスについて、有用な知見を持つ Ales Podgornik 氏 との共同研究を進めることにより、新たなプロセスの開発が期待できる。

交流の詳細は以下のとおり。

氏名・所属	期 間 (現地到着日～現地出発日)	主たる訪問機関 (国名)
山本修一・山口大学	2014年5月29日～6月6日	COBIK(スロベニア)
山本修一・山口大学	2014年8月23日～8年28日	IDS2016 conference(フランス)
山本修一・山口大学	2014年9月07日～9年11日	ESBES conference (フランス)
Ales Podgornik・COBIK	2014年10月25日～11年4日	山口大学・奈良県新公会堂
山本修一・山口大学	2014年11月15日～11年19日	AIChE meeting(アメリカ)
山本修一・山口大学	2015年3月12日～3月19日	COBIK(スロベニア)
吉本則子・山口大学	2015年3月12日～3月16日	COBIK(スロベニア)

【得られた成果】

A.Podgornik 氏滞在中(10月25日～11月4日)に新たな実験条件を見出し、従来不可能であった生成物までを短時間に分離分析できることが可能となった。これにより PEG 化反応を精密かつ正確に解析できると期待される。この成果については論文投稿準備中である。また、重合体を容易に分離できるリガンドを解析した。この成果は A.Podgornik 氏との共著論文として ESBES conference(9月7日～9月11日)で発表した。PEG 化により拡散係数が低下することはよく知られているが、その値を溶液中の拡散係数のみならず細孔内拡散係数につい

でも測定し、有用な相関式を作成した。この内容については AICHe meeting で共著論文として発表した(11月15日～11月19日)。

(2) 外国人特別研究員

独立行政法人日本学術振興会が実施する、諸外国の若手研究者に対し、日本の大学等において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供する事業。個々の外国人特別研究員の研究の進展を援助するとともに日本及び諸外国における学術の進展に資することを目的とする。

①【研究課題】深海底におけるメタンハイドレートの長期生産可能な手法の開発

【期間】2014年度～2016年度

【山口大学実施部局】大学院理工学研究科

【山口大学担当教員】兵動 正幸（教授）

【被招へい者旧所属機関名（国・地域名）】大連理工大学（中国）

【被招へい者】LI Yanghui（講師）

【事業概要】

深海底におけるメタンハイドレート生産を模擬した模型実験および解析を実施し、生産障害要因を除去して高い生産性を確保するとともに、安全な生産手法を開発することを目的として、2通りの模型実験および解析を行った。

【得られた成果】

メタンハイドレート分解実験を平面ひずみおよび円筒模型実験装置を用いて実施した。平面ひずみ試験装置を用いて、細粒分の異なる試料にメタンハイドレートを生成させ、分解実験を実施した。その結果、細粒分含有率の増加により、メタンハイドレート分解の時間遅れとガス生産量の違いが認められた。また、円筒模型実験装置を用いて、中央の生産井からの減圧速度と減圧量を変えてメタンハイドレート分解実験を行った。実験結果として、間隙水圧、温度、模型試料内に局所ひずみが得られた。平面ひずみ実験結果を対象に有限要素法による解析を行った。減圧に伴う温度変化やひずみを比較的うまく表現することができた。

②【研究課題】メタンハイドレート長期生産時における海底貯留層変形の数値解析

【期間】2015年度～2017年度

【山口大学実施部局】大学院理工学研究科

【山口大学担当教員】兵動 正幸（教授）

【被招へい者旧所属機関名（国・地域名）】大連理工大学（中国）

【被招へい者】WU YANG（講師）

【事業概要】

1. メタンハイドレートを含む場合と含まない場合の深海底地盤を対象とした熱・水・ガス・土連成解析を実施した。
2. メタンハイドレート胚胎土におけるストレス・ダイレイタンスー関係に及ぼすメ

タンハイドレート飽和率の影響を実験的に調べた。

3. ガラスビーズにメタンハイドレートを生成させ、せん断試験を行った。

【得られた成果】

1. メタンハイドレート生成に伴う地層変形を評価するための連成解析が可能となった。また、メタンハイドレート胚胎土のメタンハイドレート飽和率の変化に対応した構成則を生成することができた。
2. メタンハイドレート飽和率の増加に伴い、ストレス・ダイレイタンシー関係の傾きが増加することが明らかとなった。これらの知見に基づきメタンハイドレート胚胎土の簡易な構成モデルを作成した。
3. メタンハイドレートの固結力による急激なせん断強度の増加が自然砂に生成させた場合よりもより顕著に表れた。③【研究課題】ナノシート及びナノシートを基盤とする材料の光機能性：光学物性のチューニング

- ③【研究課題】ナノシート及びナノシートを基盤とする材料の光機能性：光学物性のチューニング

【期間】 2015 年度～2017 年度

【山口大学実施部局】 大学院創成科学研究科（理学系）

【山口大学担当教員】 川俣 純（教授）

【被招へい者旧所属機関名(国・地域名)】 スロバキア科学アカデミー(スロバキア)

【被招へい者】 Marian MATEJDES (研究員)

【事業概要】

無機ナノシートに取り込まれた有機化合物には、有機化合物単体のときとは異なる特異的な光学物性を示すものがある。本研究では、(1)無機ナノシートそのもののデザイン、(2)無機ナノシートの層間にカリックスアレーンやシクロデキストリンのような有機ホスト材料を共存させる事による層間環境のデザインという二つの方法論により、取り込まれた有機化合物の性質をチューニングできるようにする。このことにより有機物が持つ潜在的な特性を最大限発揮させ、優れた光学物性を持つ無機ナノシート-有機化合物ハイブリッド材料を創出するための礎を築くことが目的である。

【得られた成果】

カリックスアレーンやシクロデキストリンが層間に共存する無機ナノシート-有機化合物ハイブリッド材料では、層間に取り込まれた有機化合物の会合が大幅に抑制されることを示すことができた。また、粘土鉱物を利用した系では、取り込まれた有機化合物の集合状態を、膨潤/乾燥という外部刺激によりスイッチすることに成功した。

(3) 論文博士号取得希望者に対する支援事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、アジア・アフリカ諸国の優れた研究者が、

日本の大学において大学院の課程によらず論文提出によって博士の学位を取得できるように支援する事業。

【研究課題】 高速鉄道レールにおける突き合わせ溶接部位の強度信頼性評価

【期間】 2014 年度～2016 年度

【山口大学実施部局】 大学院理工学研究科

【山口大学担当教員】 合田 公一（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】 トルコ国鉄（トルコ）

【相手方参加者】 SARIKAVAK, Yasin (研究員)

【事業概要】

高速鉄道レールに用いられるアーク突き合わせ溶接部位の強度信頼性評価を目指し、2015 年度は、SARIKAVAK 氏を 26 日間（2016 年 2 月 3 日～2 月 28 日）受入れ、研究指導を行った。

【得られた成果】

平成 26 年度に取得したフィールドデータ（動的荷重分布）の信頼性解析に取り組み、得られた解析値を境界条件として、突き合わせ溶接レール（UIC60）に対する有限要素解析を実施し、応力分布の取得と強度評価を行なった。その際、過去に公表されている疲労寿命データの文献調査も併せて行ない、強度評価の基準値または参考値とした。平成 27 年度は指導教員の所属する研究室に既存設備として設置されている疲労試験機（島津サーボパルサー）を用い、突き合わせ溶接レールの疲労試験を実施した。

(4)研究拠点形成事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、日本において先端的かつ国際的に重要と認められる研究課題、または地域における諸課題解決に資する研究課題について、中核的な研究交流拠点の構築とともに、次世代の中核を担う若手研究者の育成を目的とする事業。

①【研究課題】 バイオ新領域を拓く熱帯性環境微生物の国際研究拠点形成

【研究期間】 平成 26 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

【山口大学中心実施部局】 農学部

【山口大学担当教員】 山田守（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】 カセサート大学 [(タイ側拠点機関)], ブラパ大学, チェンマイ大学, チュラロンコン大学, コンケン大学, キングモンクット技術大学ラドクラバング校, キングモンクット工科大学トンブリ校, マエファーラン大学, マハサラカン大学, メイジョ大学, マヒドン大学, ナレスアン大学, フラモンクットクラオ医科大学, ソンクラ王子大学, ラジャマンガラ工科大学タウンオク, ラジャマンガラ工科大学イサン, ランパイパニ教育大学, ラムカンヘン大学, シーナカリンウィロート大学, スラナリー工科大学, タマサート大学, タクシン大学, ウボンラチャタニ大学, パヤオ大学, ワライラク大学, 遺伝子工学・バイオテック国立研究所, タイ科学技術研究所, バイテックカルチャーコレクション, 生物多様性経済開発庁（以上すべ

てタイ), ベルリンボイト工科大学 [(ドイツ側拠点機関)], カントー大学 [(ベトナム側拠点機関)], ハノイ国家大学, ホーチミン市技術大学, タイドー大学, タンタオ大学, 熱帯生物研究所, 科学技術ベトナムアカデミー, 経営や事業技術研究所 (以上すべてベトナム), ブラビジャヤ大学 (インドネシア側拠点機関), 11月10日技術大学, マタラム大学, ハイルン大学, ベテランスラバヤ大学, ガジャマダ大学, 技術の評価と応用庁 (以上すべてインドネシア), ラオス国立大学 [(ラオス側拠点機関)], マンチェスター大学 [協力大学] (イギリス)

【事業概要】

本事業には, 日本, タイ, ドイツ, ベトナム, インドネシア, ラオスの大学等から約200名の研究者が参加し, 5つの研究課題を約60-70件の国際共同研究によって実施する。なお, マンチェスター大学 (イギリス) の研究者が, 将来拠点大学となることを目指し, 日本側の研究協力者として参加する。そのために, 本事業メンバー全員が参加する「ジョイントセミナー」をタイと日本とで隔年開催し, 成果報告や新技術紹介等を通じて積極的な情報交換を主眼として実施する。また, 現地研究者との相互交流や事業の認知・拡大のために, 「サテライトセミナー」をベトナム, ラオス, ドイツ, インドネシアで毎年輪番で開催する。さらに, 学生を含む若手研究者育成の一環として「若手研究者セミナー」を日本あるいはタイで毎年開催する。加えて, 「ワークショップ」や「国際会議等でのシンポジウム」等を開催する。

【得られた成果】

1. 研究協力体制の構築

コーディネーター会議を3回開催し, 事業計画・方向性等のフレーム作成と意見交換を行った。8月7~8日, 第1回サテライトセミナーをインドネシアで開催。現地の大学及び企業関係者約100名に, 国際拠点事業の実績や本事業内容を紹介し, 小課題研究の成果報告, 共同研究者間交流, 研究施設の視察等を行った。8月10~11日, 第1回ジョイントセミナーをタイ研究博覧会 (バンコク) の1つのセッションとして開催し, 約200名が参加した。基調講演2題とともに, 5つの研究課題からそれぞれ3~5件の研究成果を口頭発表した。加えて, 約90名の研究者交流により, 約70件の共同研究を開始した。

2. 学術面の成果

各研究課題について共同研究を進め, 研究成果として, 本事業参加研究者との共同論文7本を含む9本の論文を発表した。

3. 若手研究者育成

11月16~17日, 第10回若手研究者セミナーを山口市で開催し, タイ, ベトナム, インドネシア等の本拠点事業参加研究者の指導する学生及び日本人学生を含む若手研究者100名以上が参加して, 研究成果発表を行った。大学院生は, 企画・運営にも携わり, 学会開催のノウハウの取得や研究ネットワーク形成につながった。

②【研究課題】衛星リモートセンシングによる防災・環境に関する

東南アジア研究・教育拠点の構築

【研究期間】2015年4月1日～2018年3月31日

【山口大学中心実施部局】大学院理工学研究科

【山口大学担当教員】三浦房紀（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】ウダヤナ大学〔(インドネシア側拠点機関)〕, インドネシア航空宇宙研究所, 技術評価応用庁, 国家防災庁, 気象気候物理庁, 測量地図庁, 海洋水産庁, ブラビジャヤ大学 (以上すべてインドネシア), ハノイ農業大学〔(ベトナム側拠点機関)〕, チュラロンコン大学 (タイ側拠点機関), カセサート大学, アジア工科大学 (以上すべてタイ), 東ティモール大学〔(東ティモール側拠点機関)〕

【事業概要】

本事業では、山口大学がウダヤナ大学と連携して構築した、大学院連携システムを利用し、今後の応用への期待が大きい衛星リモートセンシング技術の防災・減災、環境への応用研究の実施と専門家の育成を主眼とする『東南アジア研究教育拠点の構築』を目標とする。

具体的には、以下の2つの研究領域を対象とする。

(1) 地震, 風水害, 火山に起因する

①土砂災害, ②構造物被害, ③津波, ④洪水, ⑤高潮, ⑥地盤変状などの解析

(2) 「海洋環境・気象」と「災害」との関係の解析

【得られた成果】

1. 研究協力体制の構築

2015年5月25, 26日にウダヤナ大学(インドネシア共和国デンパサール市)において、第1回国際セミナー“Disaster Mitigation and Environment Research with Satellite Remote-Sensing”をウダヤナ大学と共催した。また、5月の第1回セミナー後の半年間での情報交換、共同研究実施に基づき、共同研究ワーキンググループのさらなる組織化を進め、最終的に4つのWGを設置した。

2. 学術面の成果

今年度から始めた共同研究から直接発生した国際学会への投稿論文はまだないが、山口大学とウダヤナ大学の教員が共同で大学院生を指導しながら、10年以上の長期にわたるデータを取得、解析、整理し、2016年3月にインドネシア海洋の長期変動を明らかにするインドネシア海洋データセット(Indonesian Ocean Archive, IOA)を完成させ、ウダヤナ大学、山口大学のホームページを通じて公開した。

3. 若手研究者育成

2015年9月、インドネシア拠点ウダヤナ大学大学院環境研究コースに6名の修士課程学生が入学した。内訳はインドネシアから3名、ベトナム拠点ハノイ農業大

学から 1 名，タイ拠点チュラロンコン大学から 1 名，マレーシアプトラ大学から 1 名である。